

大麻町未来づくり会議 アンケート結果 実施報告

令和 7 年 10 月

実施概要

1.目的

地域住民や関係者の皆様のご意見・ご要望を把握し、町の将来像や地域課題に対する施策検討に役立てる目的として実施するものです。

2.実施内容

<対象者>

- ・いきいきサロン利用者（高齢者世代）
- ・大麻町にある幼・小・中などの保護者（子育て・現役世代）
- ・大麻町在住の市職員（子育て・現役世代）
- ・大麻町在住で近隣の高校に通う学生（Z世代）
- ・大麻中学校に通う学生（α世代）など

<回答方法>

WEBアンケート、紙媒体

3.調査期間

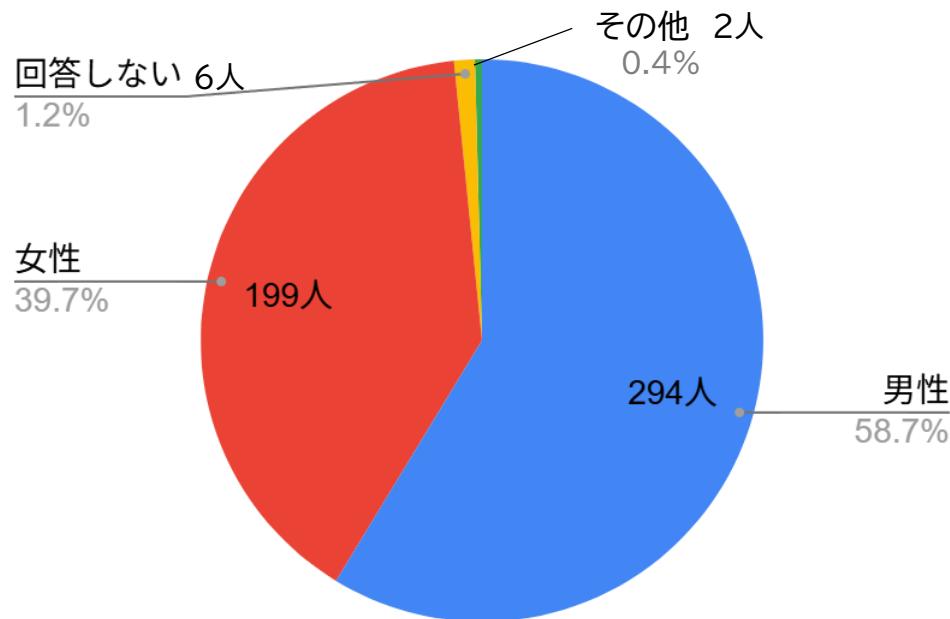
令和7年7月10日～令和7年8月20日

4.回答数

502件

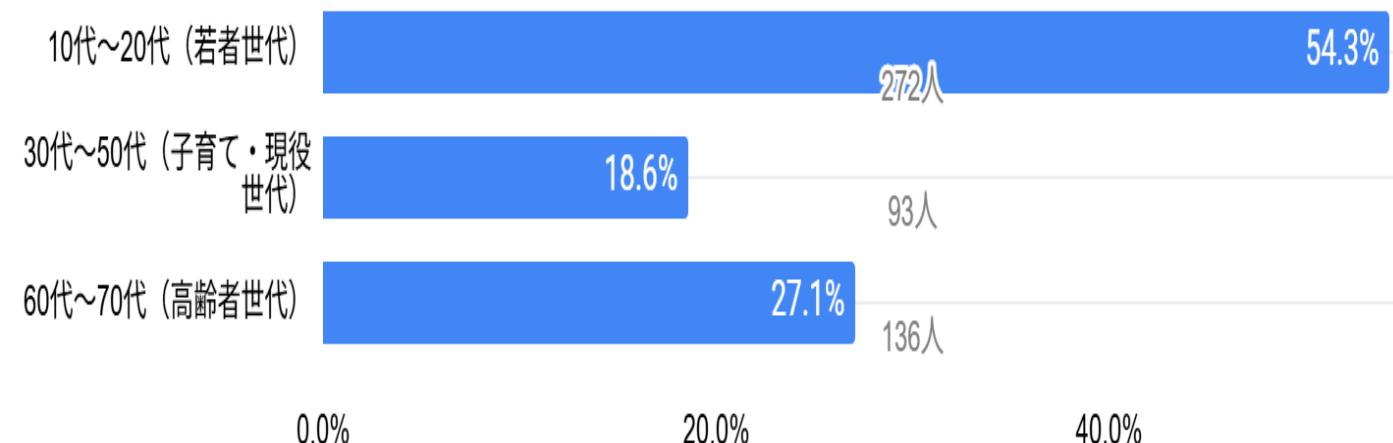
回答者のプロフィール①（性別・年齢層）

Q1: 性別をお答えください(有効回答数:501人)



・回答者の約6割は男性

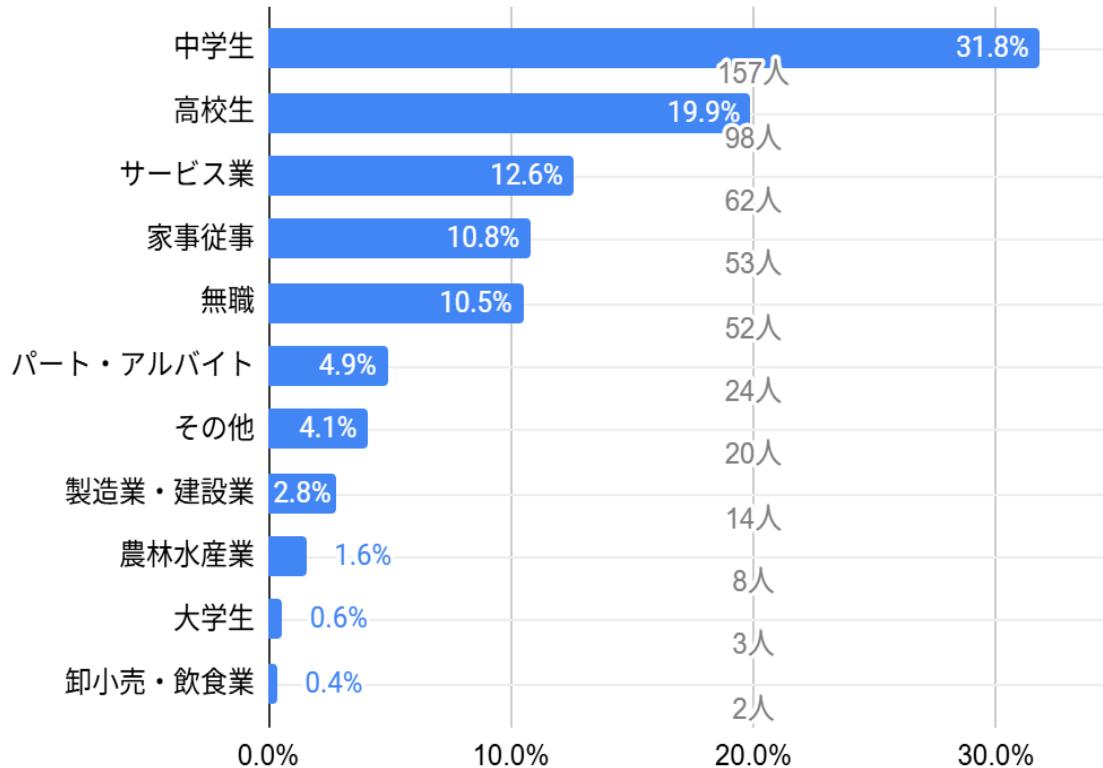
Q2: 年齢層をお答えください(有効回答数:501人)



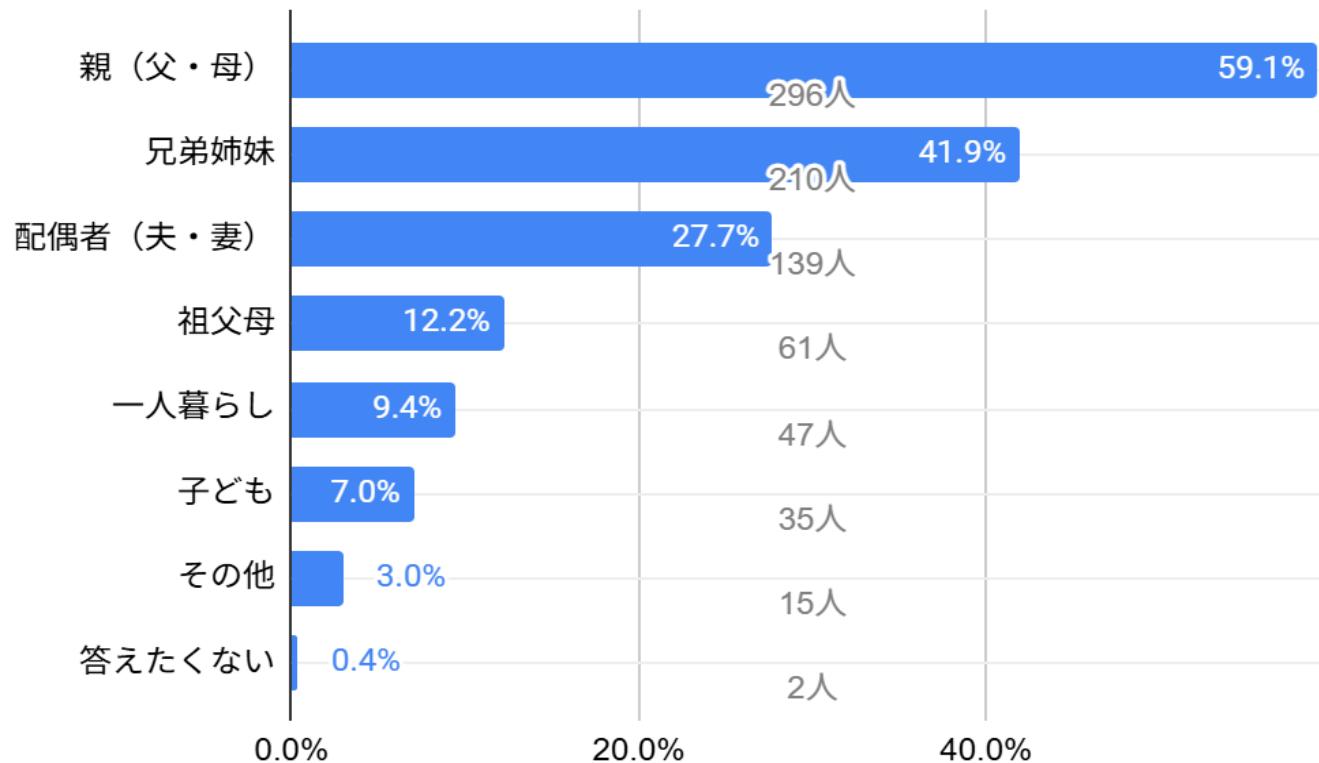
・10代～20代の「若者世代」が全体の54.3%と最も多くを占めており、次いで60代～70代の「高齢者世代」が27.1%、30代～50代の「子育て・現役世代」が18.6%となっている。

回答者のプロフィール②（職業・世帯）

Q3: ご職業をお答えください(有効回答数:493人)



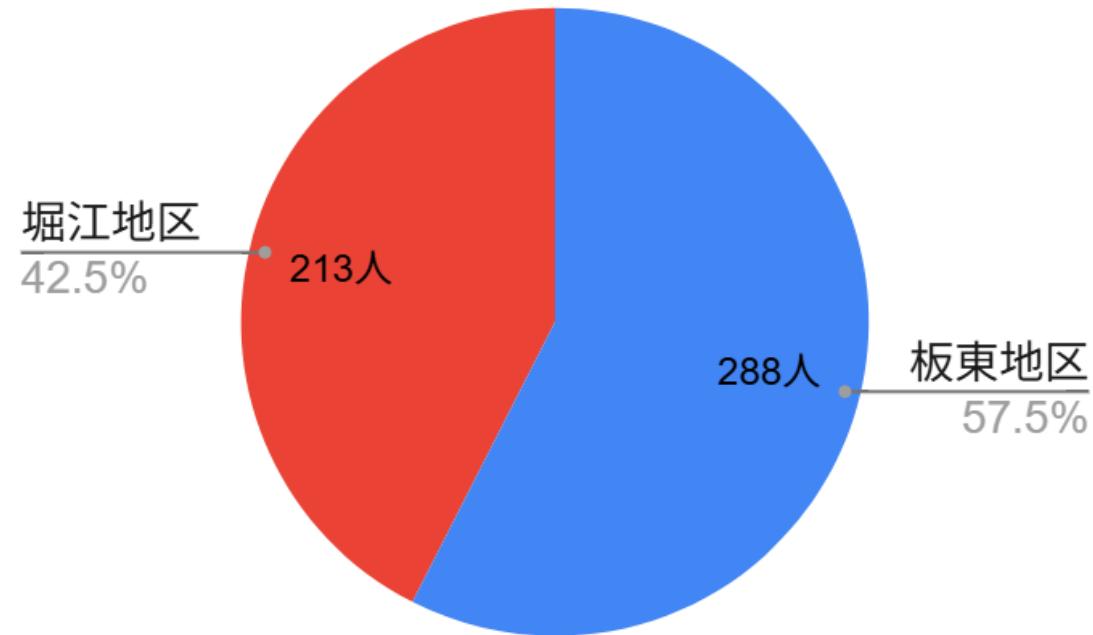
Q4: 一緒に住んでいる人をすべてお答えください(複数選択可)
(有効回答数:501人)



- 回答者の半数以上が中高生であるため、家族構成は「親」や「兄弟姉妹」との同居が多くなっている。
- 職業ではサービス業や家事従事の方が多く、世帯の多様性も見られる。

回答者のプロフィール③（居住地）

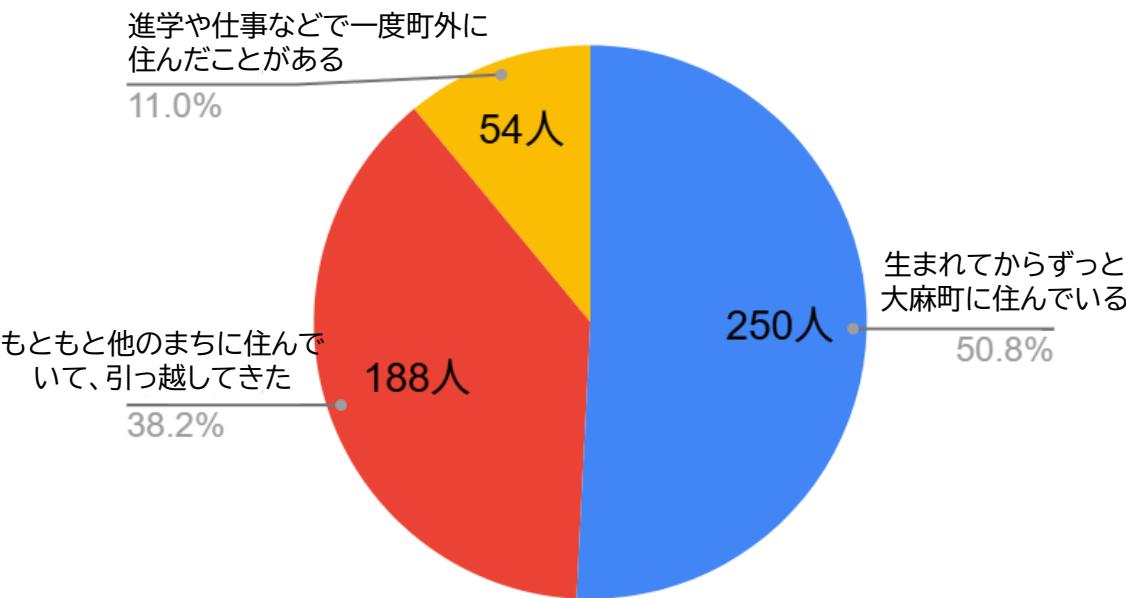
Q5: お住まいの地区を教えてください(有効回答数:501人)



- 回答者の居住地区は、板東地区が全体の約6割、堀江地区が約4割を占めている。

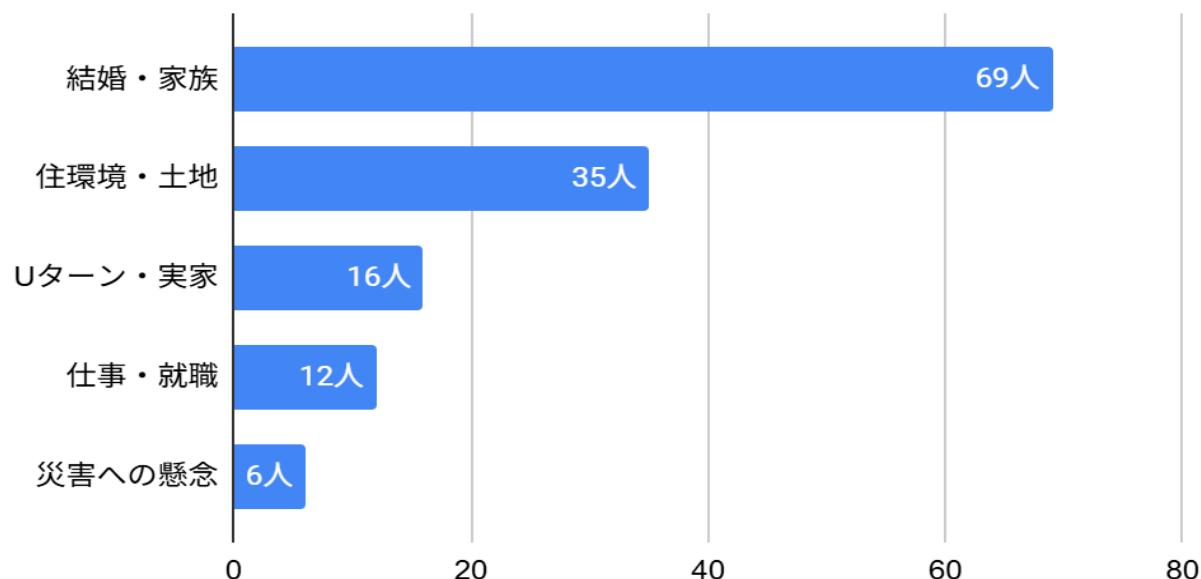
回答者のプロフィール④（出身）

Q6: あなたは大麻町で生まれ育ちましたか(有効回答数:492人)



※「進学や仕事などで一度町外に住んだことがある」または
「もともと他のまちに住んでいて、大麻町に引っ越してきた」を
選択された方は、その理由をお聞かせください(自由記述)

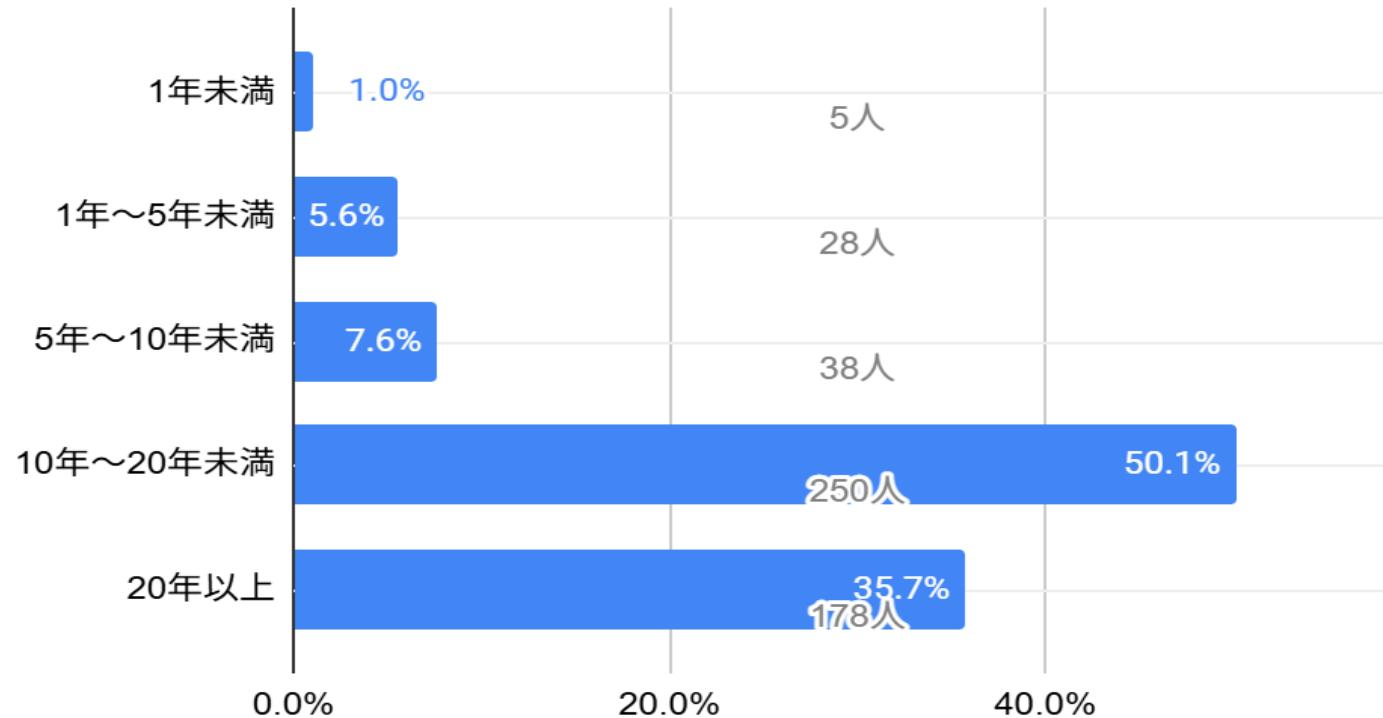
一度町外に居住または引っ越ししてきた理由 (n=138人)



- 回答者の半数が「生まれてからずっと大麻町に住んでいる」と答える一方、約4割は他のまちからの移住者であり、昔からの住民と新しく移り住んだ住民が共に暮らしているのが特徴である。

回答者のプロフィール⑤（居住期間）

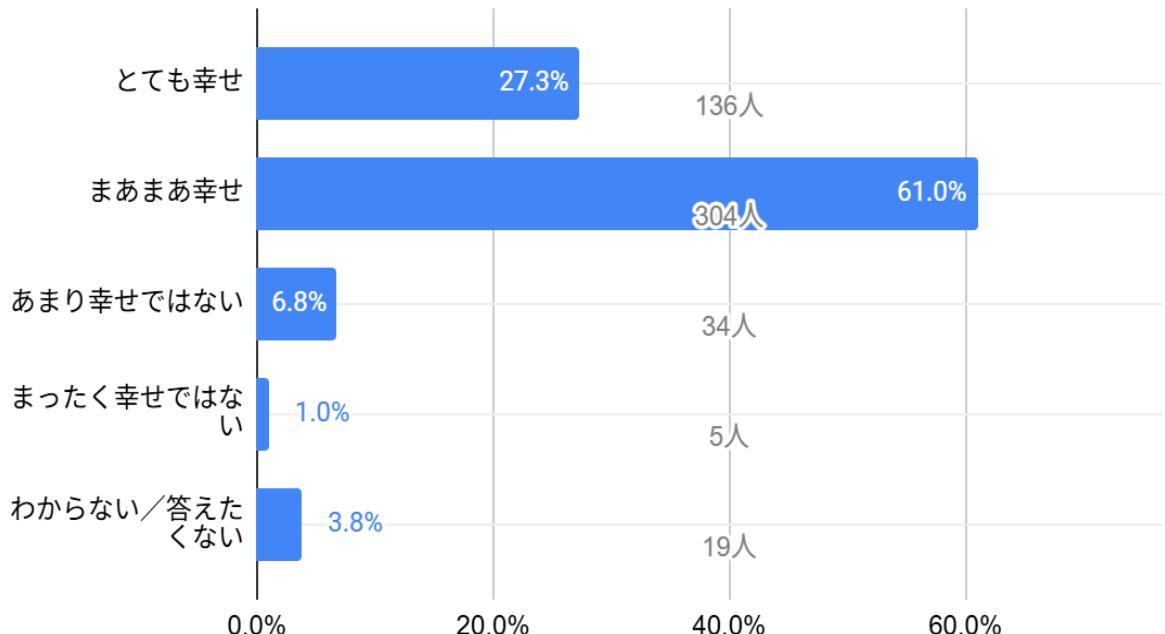
Q7: 大麻町にどれくらいの期間住んでいますか？(有効回答数:499人)



- 回答者のうち、85%以上が10年以上大麻町に暮らす長期居住者であり、特に「10年～20年未満」の層が全体の半数を占めている。これは、Q6の移住者（約4割）の多くが、この期間に定住していると考えられる。

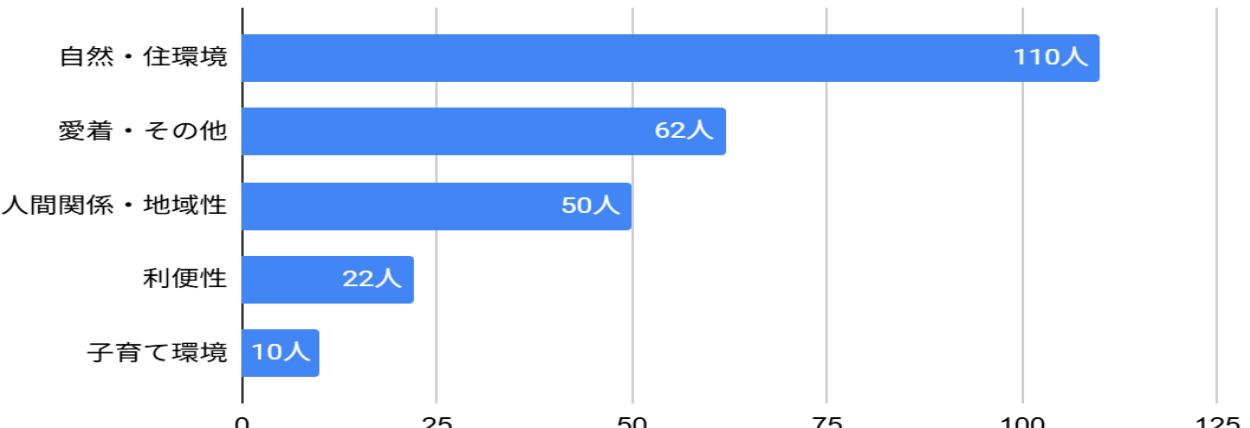
住民の幸福度

Q8: 大麻町に住んで幸せですか？(有効回答数:498人)

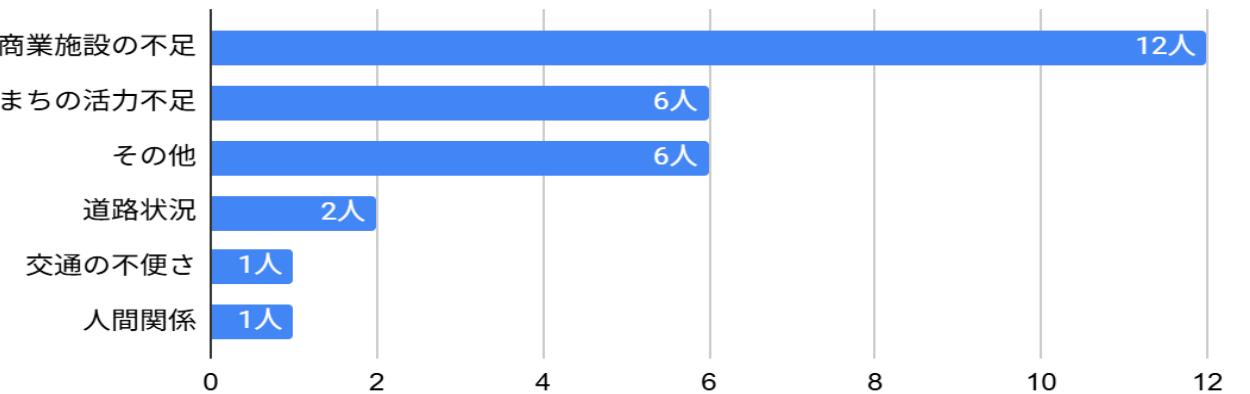


Q9: Q8でそう感じた理由や、思っていることがあれば教えてください

とても幸せ/まあまあ幸せを選択した理由（自由記述のため回答数と一致しない）



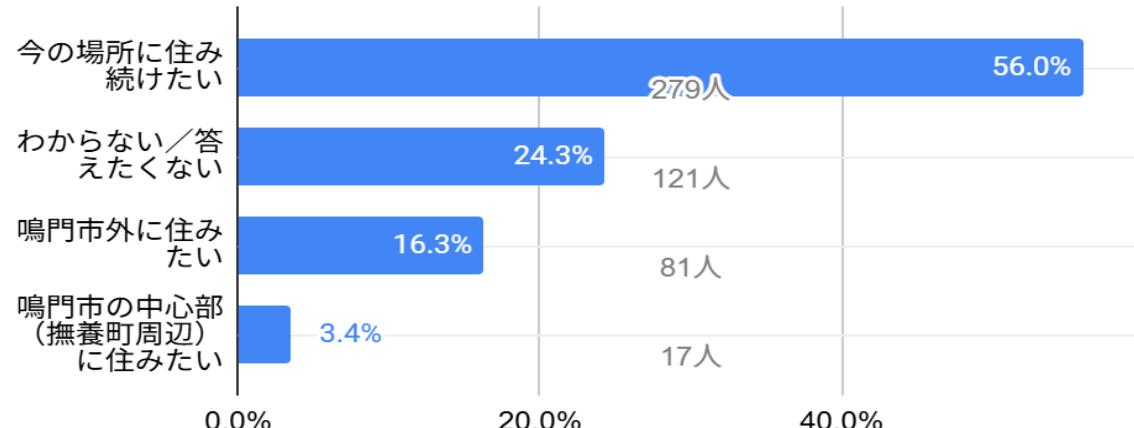
あまり幸せではない/まったく幸せではないを選択した理由
(自由記述のため回答数と一致しない)



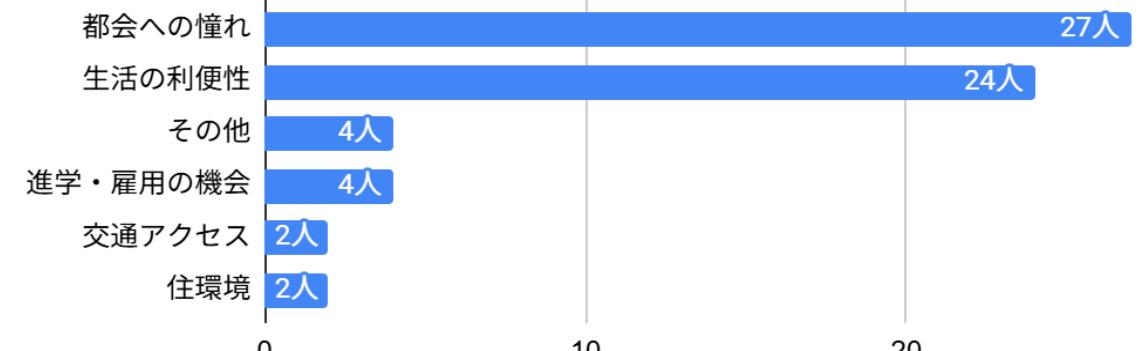
- ・住民の幸福度は、「自然の豊かさ」や「静かな住環境」といった町の魅力に支えられている。
- ・一方で、幸福を感じない理由として「商業施設の不足（買い物が不便）」が挙げられている。

今後の居住意向

Q10: これからも大麻町に住み続けたいですか？(有効回答数:498人)

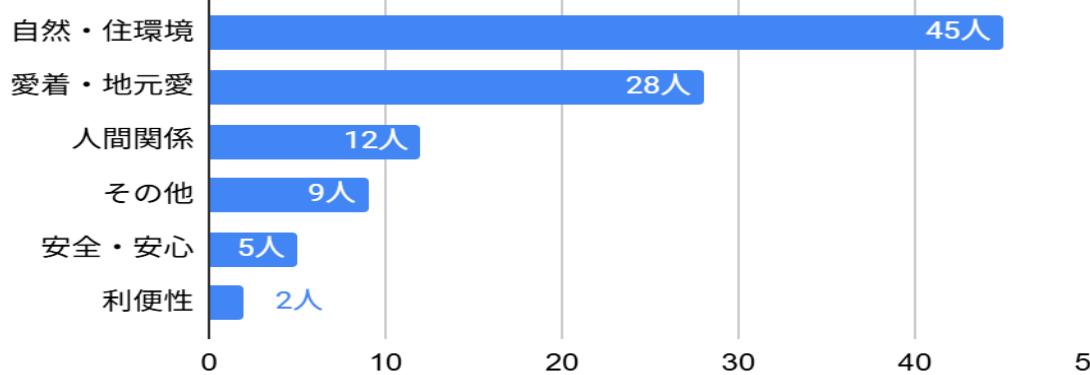


鳴門市中心部／市外に住みたい理由 (n=63人)

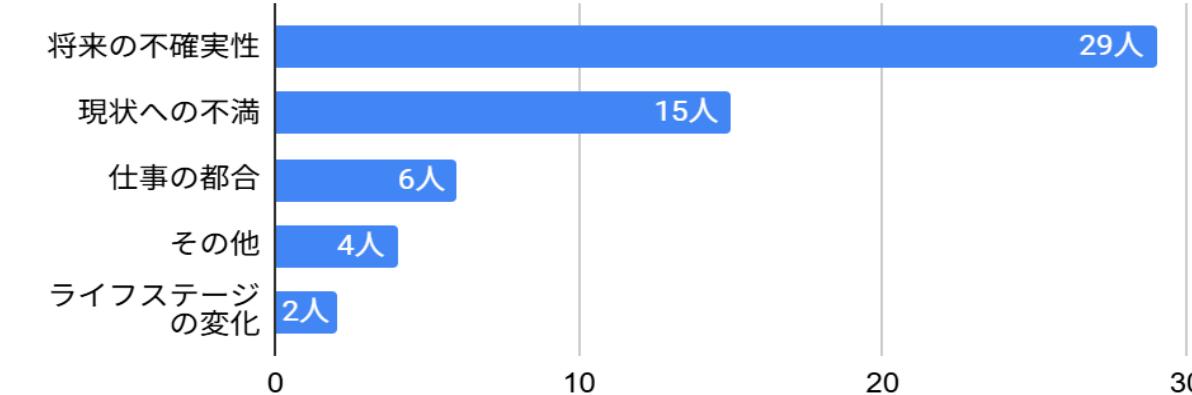


Q11: Q10の理由があれば教えてください(自由記述)

今の場所に住み続けたい理由 (n=101人)



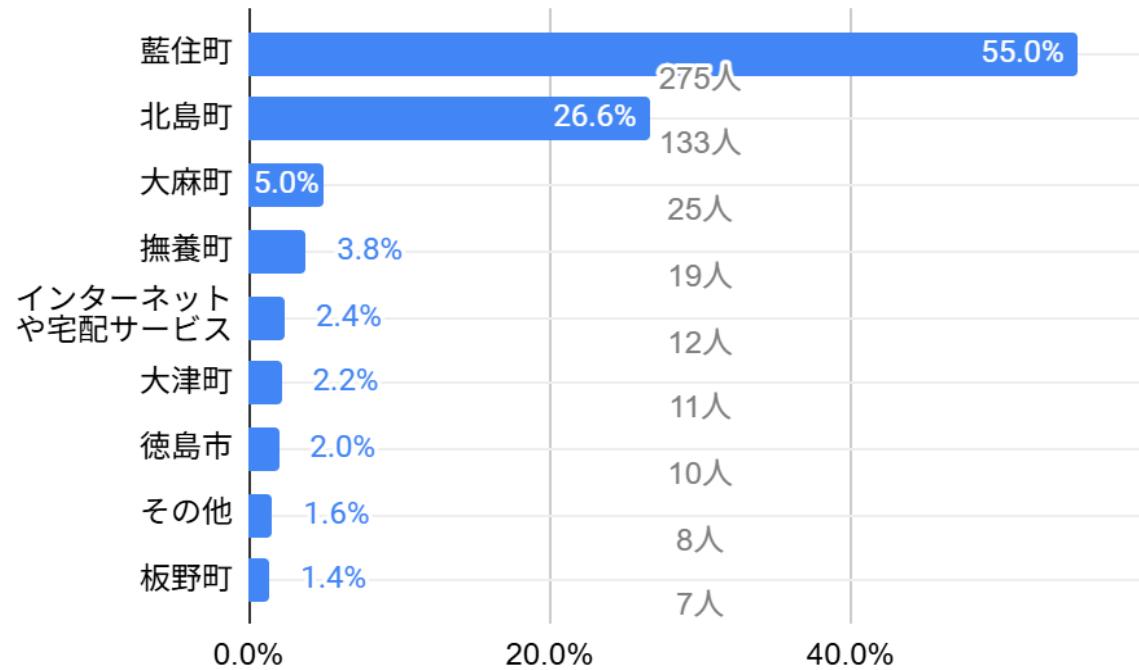
わからない／答えたたくない理由 (n=56人)



- 住民の半数以上（56.0%）は「今の場所に住み続けたい」と回答しており、一定の愛着を持っていることがうかがえる。
- しかし、約4割の住民は転出の意向をもっている。

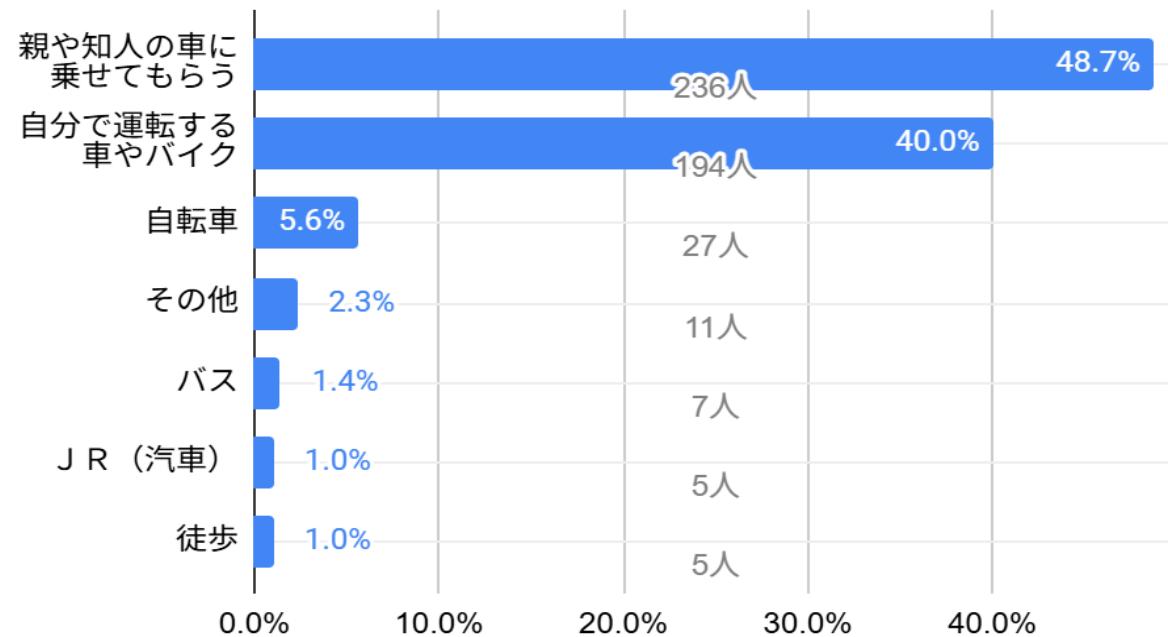
生活の基盤（買い物と移動手段）

Q12: 普段の買い物は主にどこで行いますか？
最も利用する場所を1つ選んでください（有効回答数：500人）



- ・住民の8割以上が藍住町・北島町などで買い物をする一方、地元の大麻町での買い物はわずか5%にとどまっている。
- ・この状況は、Q14において「スーパーが欲しい」という声が最も多く寄せられたことの直接的な背景と考えられる。

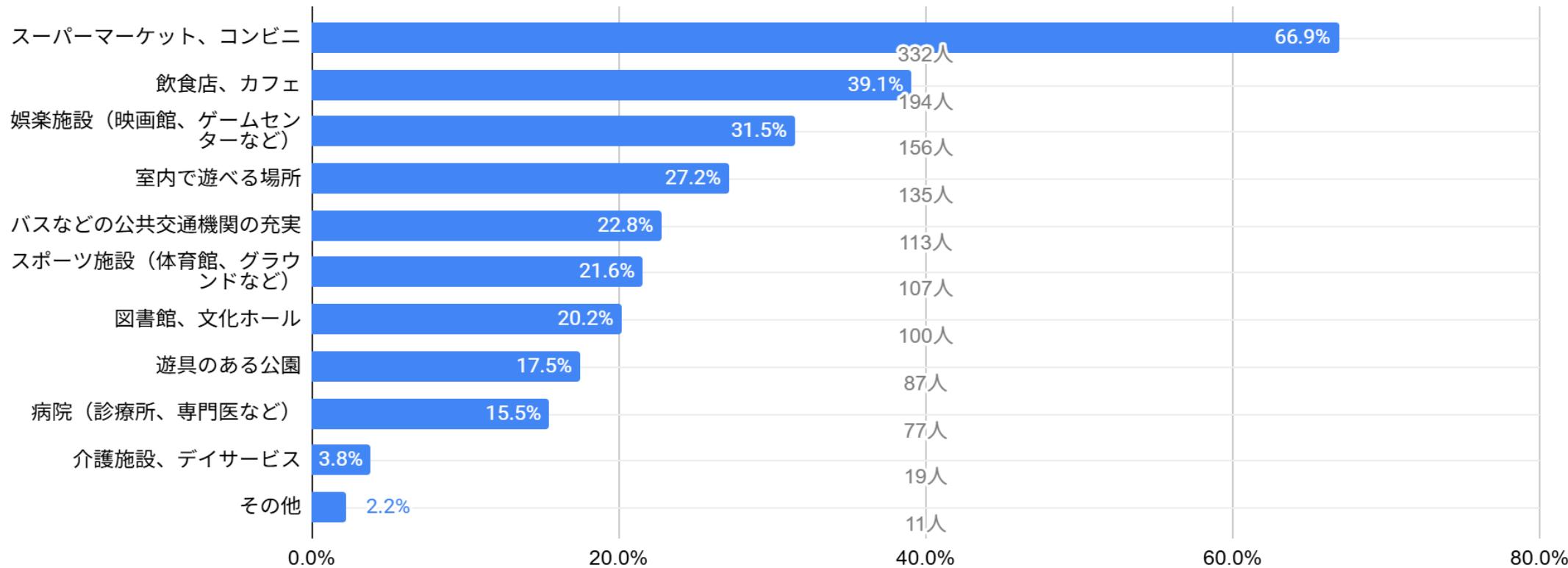
Q13: Q12に関して、主にどんな方法で買い物に行きますか？（1つ選択）（有効回答数：485人）



- ・住民の移動は約9割が自家用車を利用しており、日常生活を車に大きく依存している。
- ・特に「親の車に乗せてもらう」と回答した人が、約半数にのぼっており、車を運転できない学生や高齢者にとって移動手段の確保が大きな課題となっていることがうかがえる。

住民が求める施設・サービス

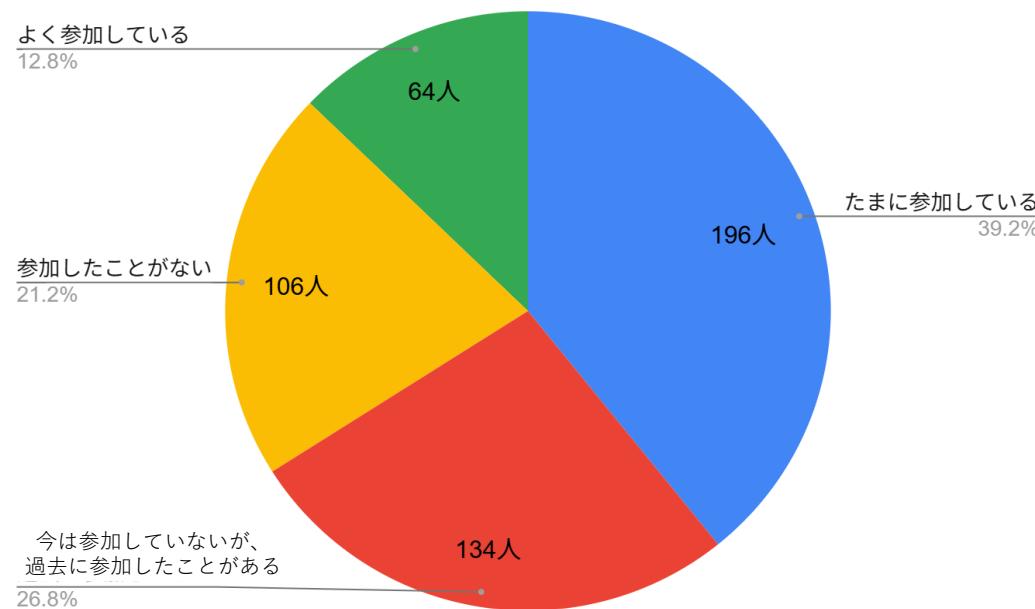
Q14: 大麻町内で「あれば便利なのに」と感じる施設やサービスは何ですか？(3つまで選択可) (有効回答数:496人)



- ・住民が最も強く求めているのは「スーパー・コンビニ」（約7割）であり、これはQ12で明らかになった日常の買い物環境の不足が背景にある。
- ・次いで「飲食店」や「娯楽施設」など余暇を楽しめる場所、さらには「公共交通」も2割以上の住民から求められており、生活の利便性だけでなく、日々の暮らしの質を高める環境整備が重要な課題であることが考えられる。

地域コミュニティとの関わり

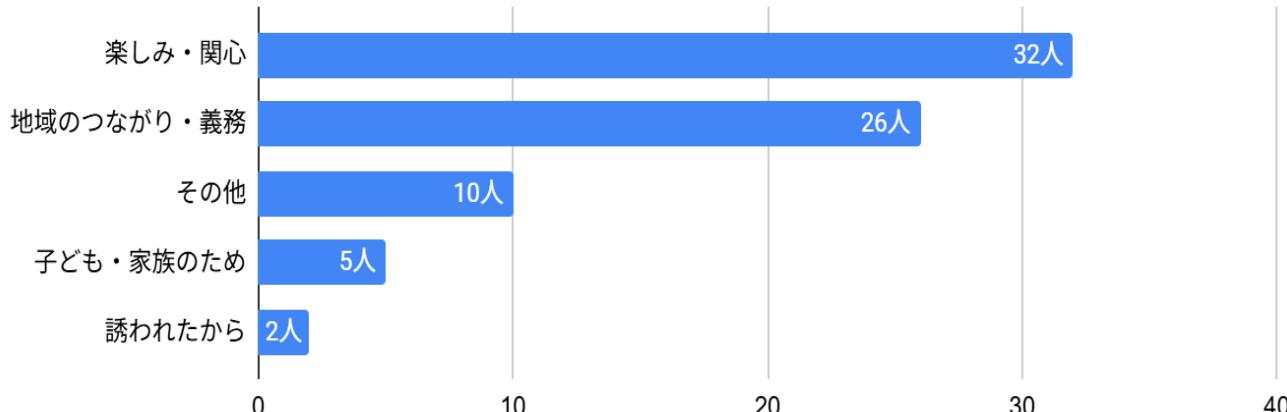
Q15: 大麻町内で、地域のイベントに参加していますか？
(有効回答数:496人)



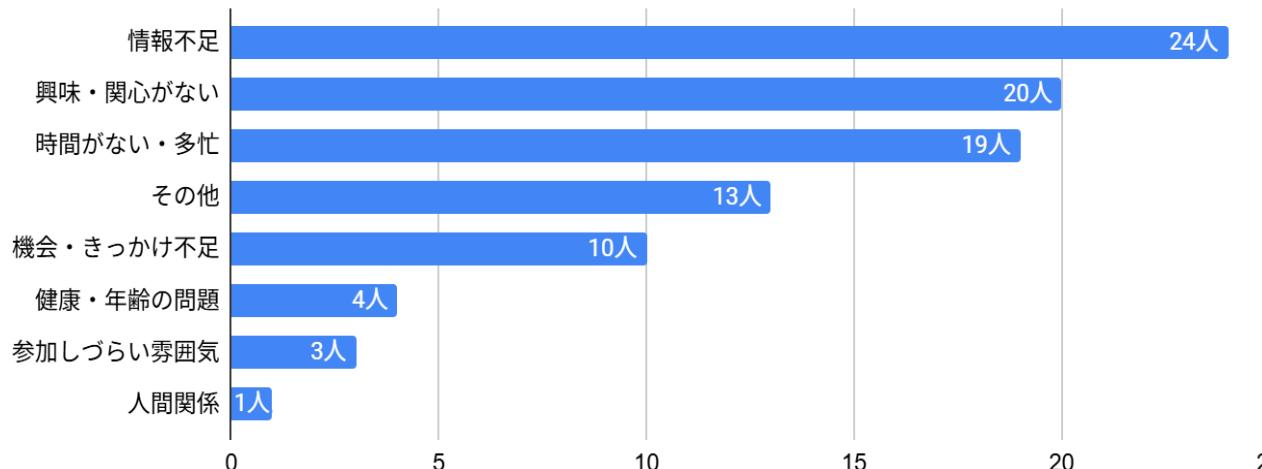
- ・地域のイベントに現在参加している住民は、全体の約半数（52.0%）である。
- ・「参加したことがない」と回答した層（21.2%）よりも、「今は参加していないが、過去に参加したことがある」という層（26.8%）の方が多く見受けられた。

Q16: Q15の理由があれば教えてください(自由記述)

地域イベントによく参加している／たまに参加している理由 (n=75人)

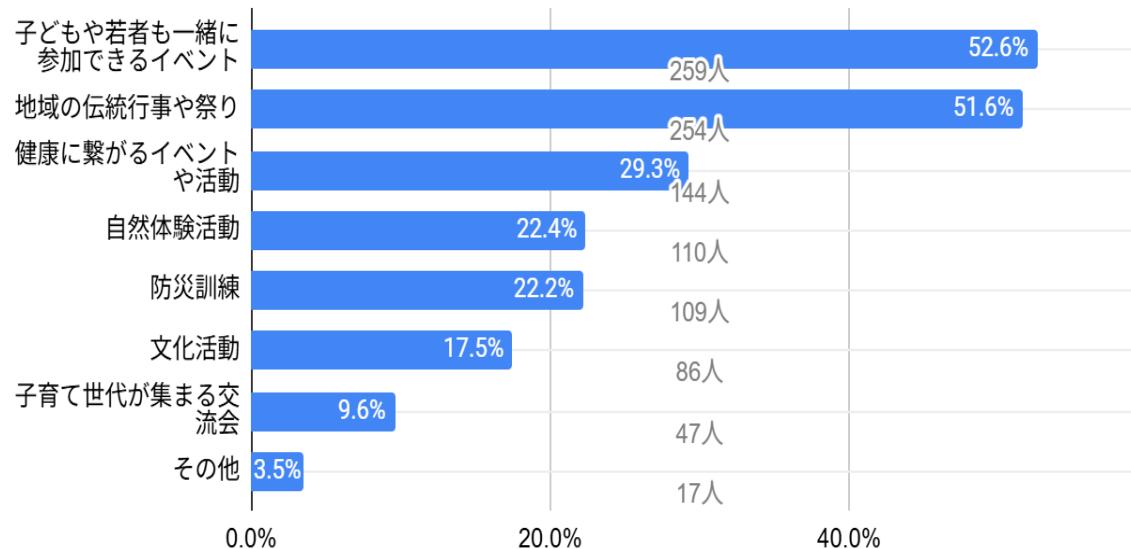


地域イベントに今は参加していないが過去に参加したことがある／参加したことがない理由 (n=94人)



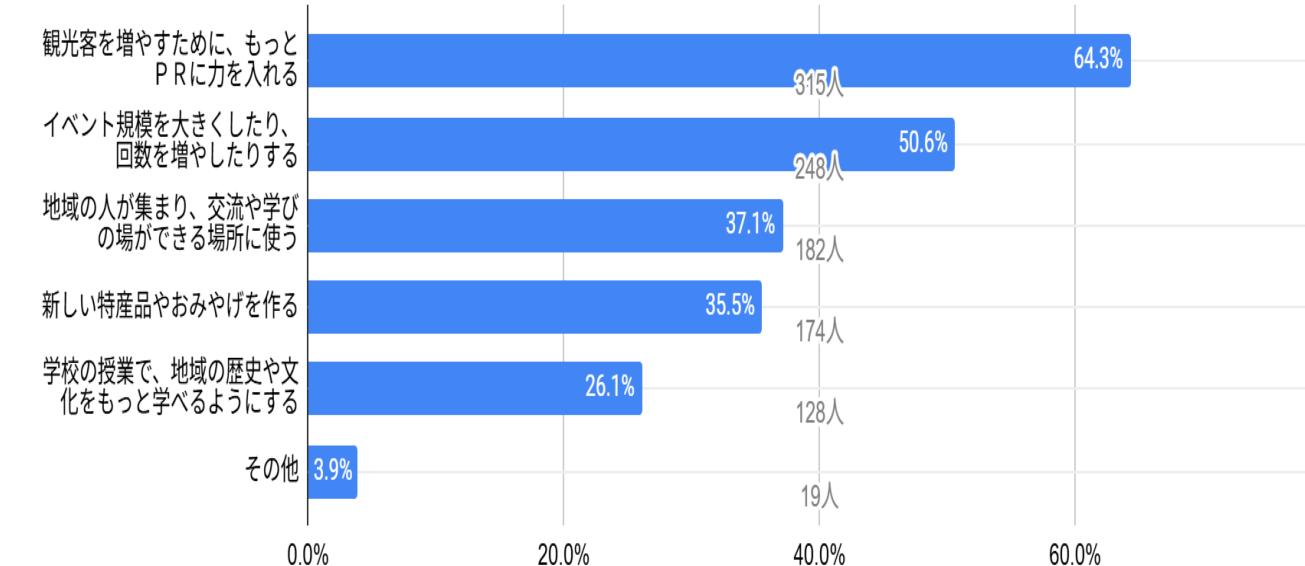
地域活動への参加・文化資源の活用策

Q17: 今後、大麻町内で、どのような地域活動や交流の場があれば参加してみたいと思いますか？（3つまで選択可）（有効回答数:492人）



- 参加したい活動は「若者向けイベント」と「伝統行事」がいずれも半数以上の回答を集め、高い関心が寄せられている。
- 次いで「健康づくり」に対する関心も高く、住民の間には世代やライフスタイルに応じた多様なニーズが存在していることがうかがえる。

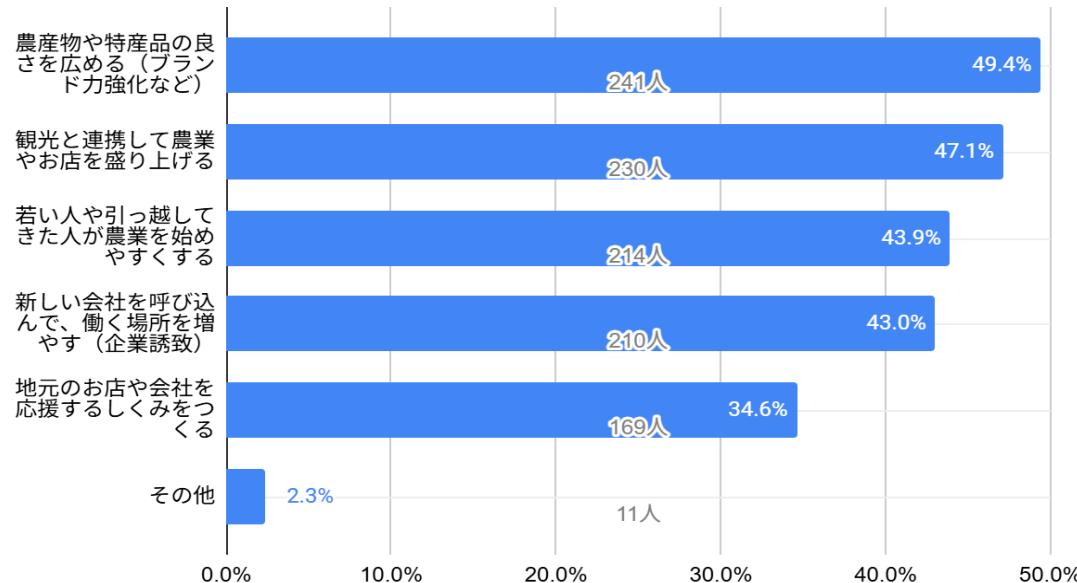
Q18: 大麻町の歴史・文化資源を、今後の大麻町のまちづくりにどのように活かすのが良いと考えますか？（3つまで選択可）（有効回答数:490人）



- 歴史・文化資源の活用法として「観光PRの強化」（64.3%）や「イベントの拡充」（50.6%）を望む声が半数を超える観光振興への高い期待が示された。
- 一方で、「地域住民の交流・学習の場」（37.1%）としての活用も求められており、外部からの観光客だけでなく、地域に暮らす住民にも目を向けた活用が重要であることがうかがえる。

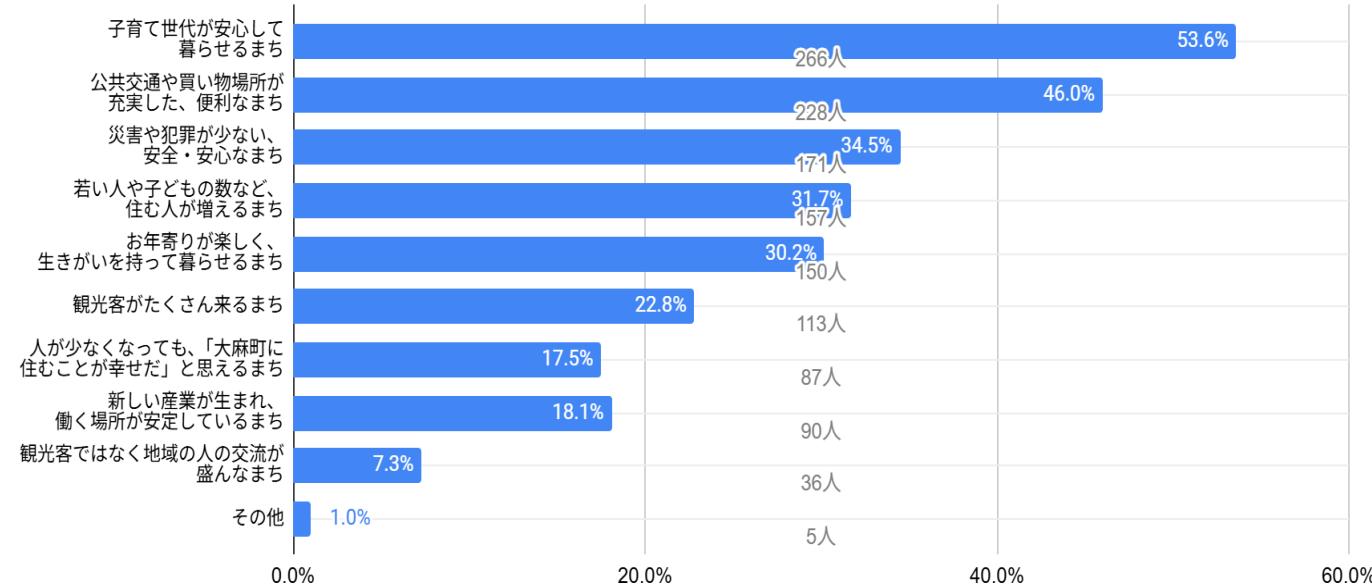
産業の活性化・将来像

Q19: 大麻町の産業を活性化するためには、どのような取組が必要だと思いますか？(3つまで選択可) (有効回答数:488人)



- ・産業の活性化策として、既存の強みである「農業（特産品）」と「観光」を活かすことを、住民の約半数が求めている。
- ・また、新たな「人材（農業の担い手）」や「企業」の誘致にも4割を超える期待が寄せられており、地域の内側と外側の両面からのアプローチが求められている。

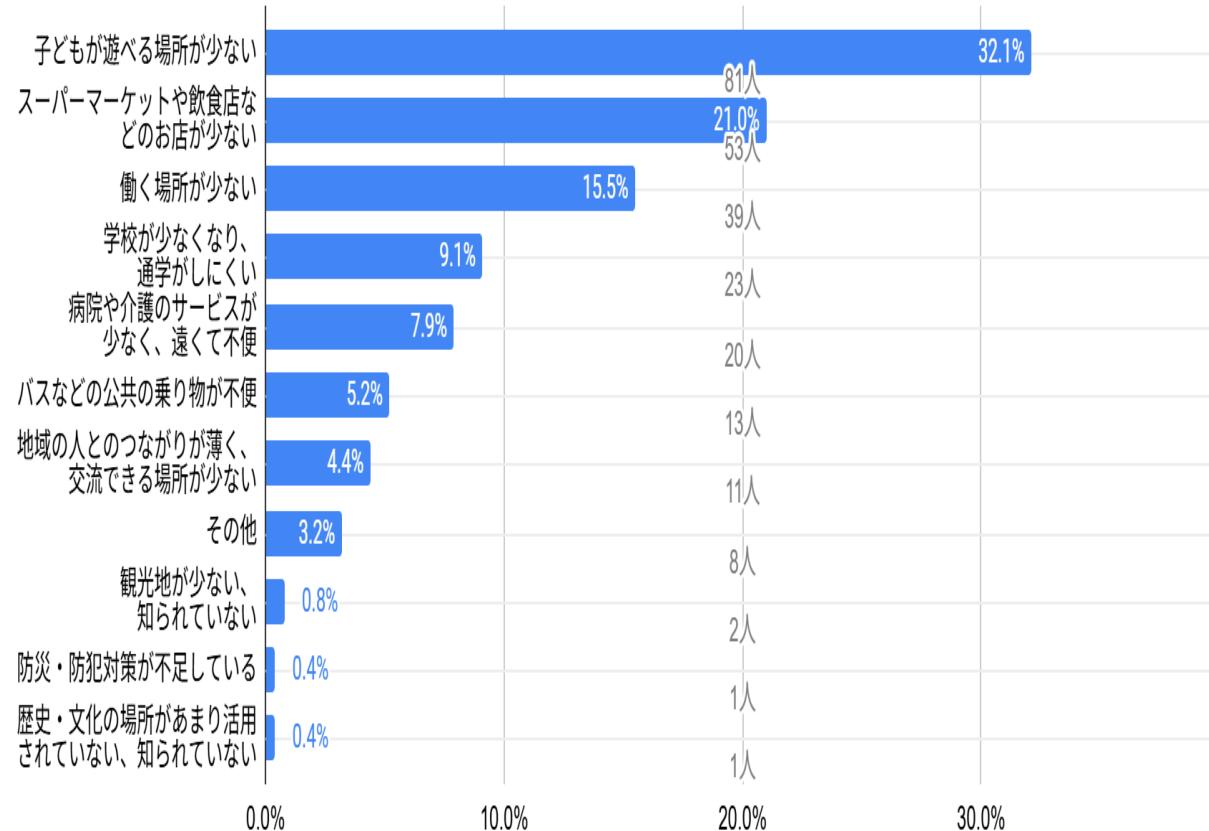
Q20: 10年後、20年後に大麻町がどのような「まち」になってほしいと思いますか？イメージに合うものを選択してください。(3つまで選択可) (有効回答数:496人)



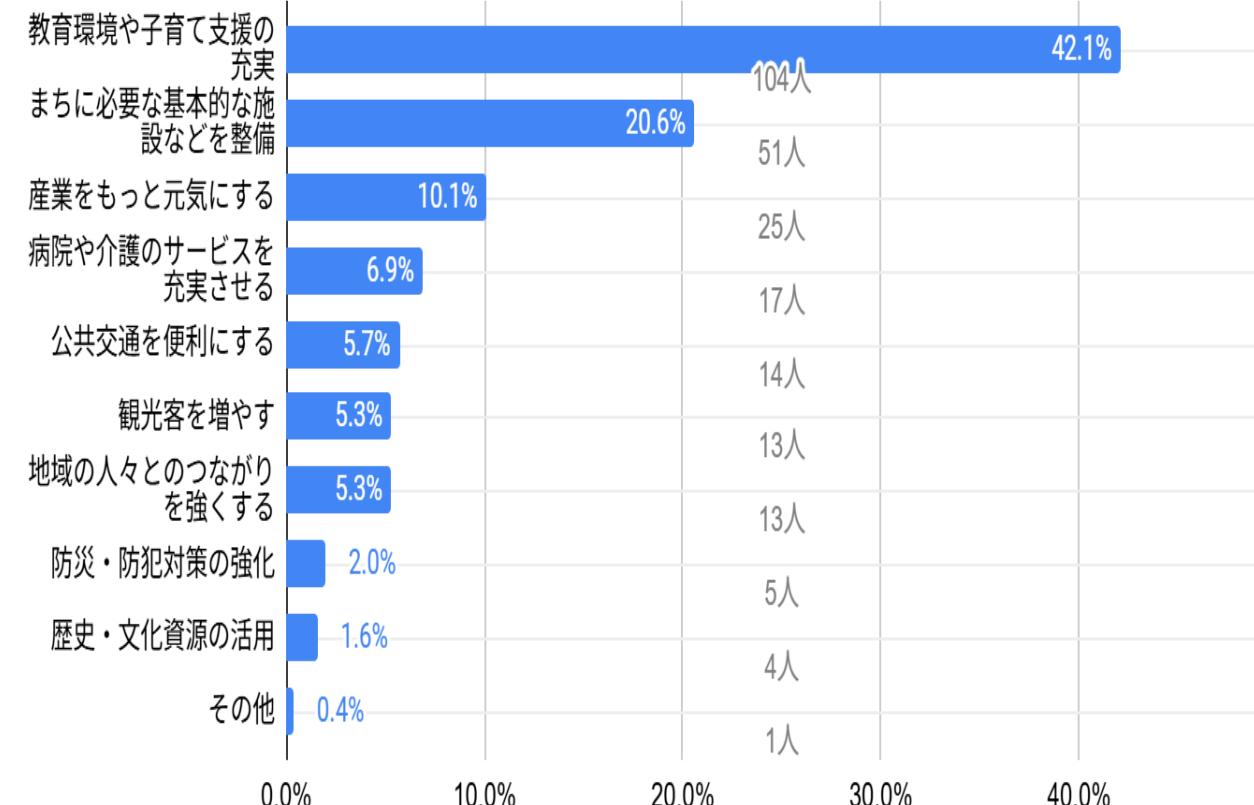
- ・住民が望む未来の姿として最も多かったのは「子育て世代が安心して暮らせるまち」（53.6%）であり、次いで「公共交通や買い物が便利なまち」（46%）が続いた。
- ・特に「便利なまち」を望む声は、これまでの設問で明らかになった「買い物の町外流出」という課題を解決したいという、住民の意向が反映されていると考えられる。
- ・次いで「安全・安心なまち」や「人口が増えるまち」といった回答も3割以上占めており、子育て支援、生活利便性の向上、安全・安心の確保が今後のまちづくりの主要な柱となることがうかがえる。

①「子育て世代が安心して暮らせるまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:252人）



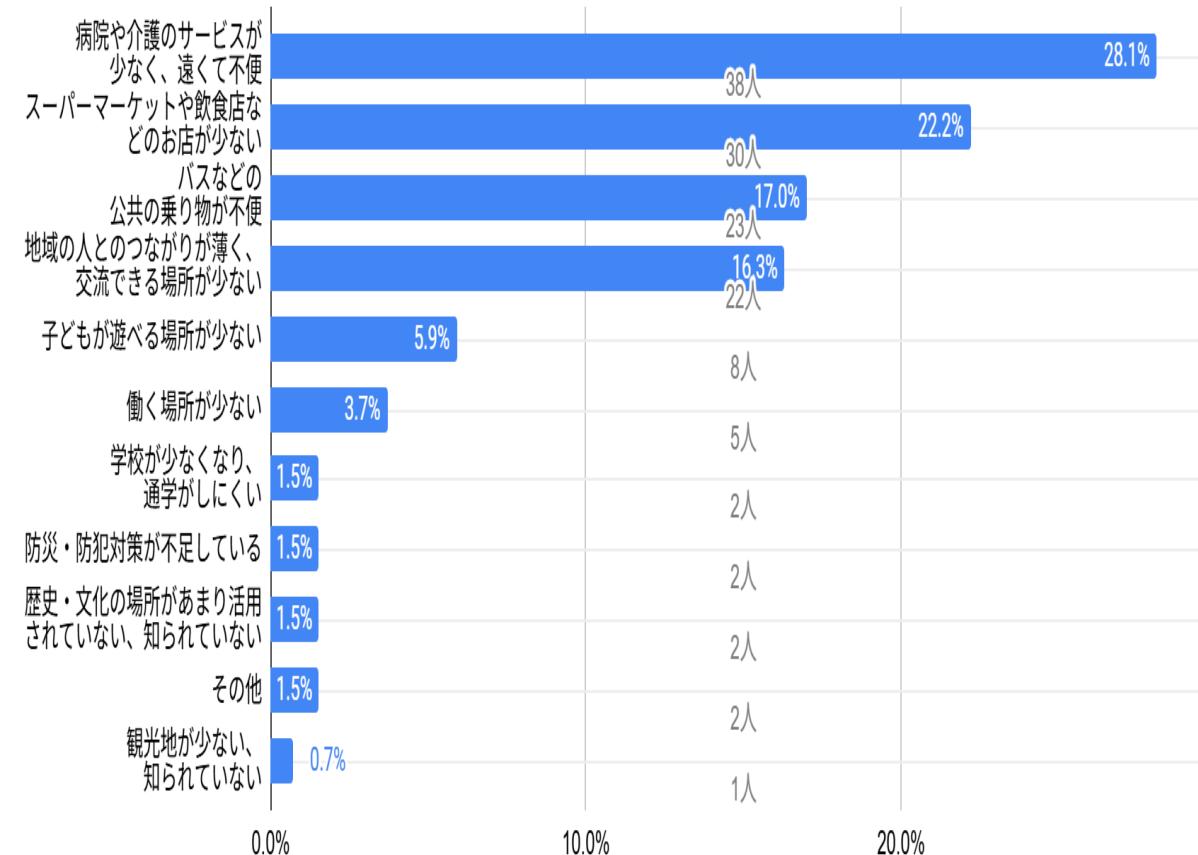
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:247人）



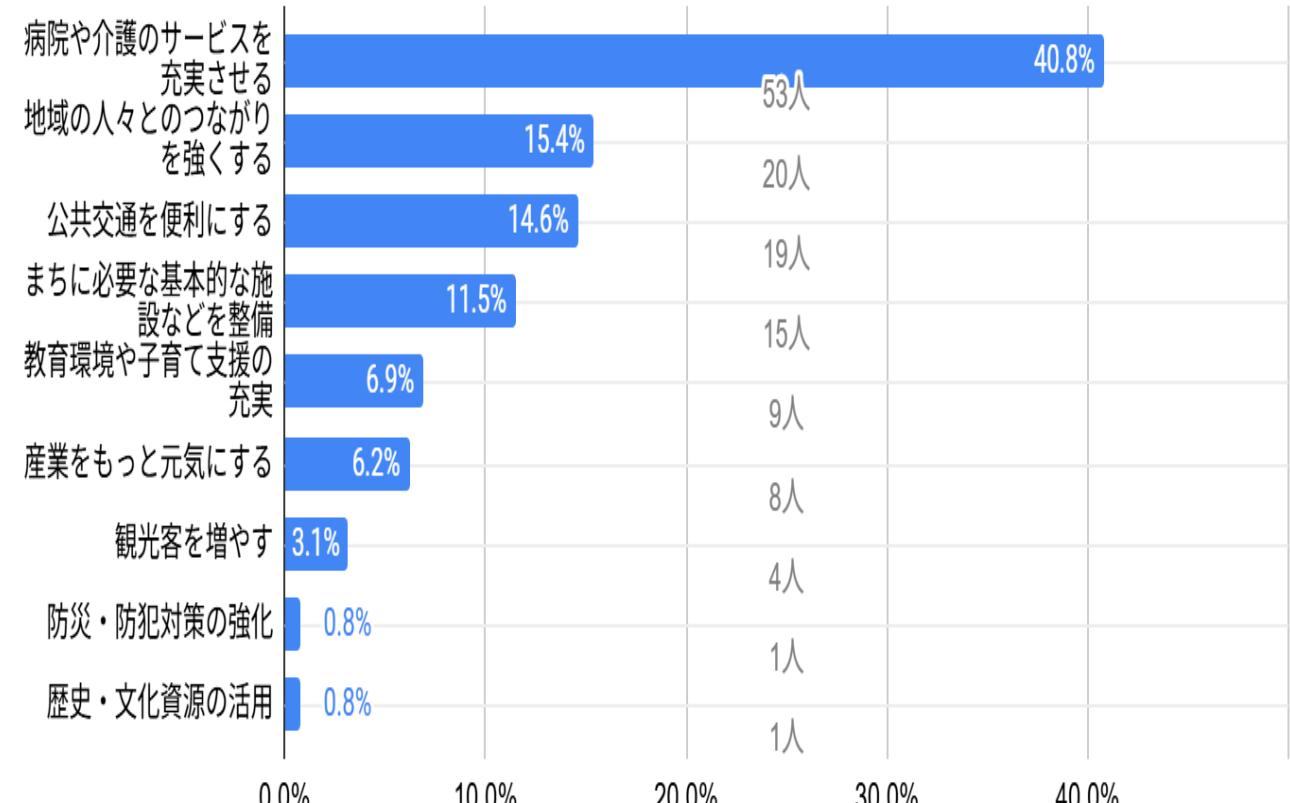
- 「子育てしやすいまち」を望む住民は、課題を「遊べる場所の不足（ハード面）」だと捉えているが、力を入れるべき取組として最も多かったのは、単なる公園整備に留まらず「教育・子育て支援の充実（ソフト面）」であった。
- この結果から、住民が「子育てのしやすさ」はハードとソフトの両面が揃って初めて実現されるものと考えていることがうかがえる。

②「お年寄りが楽しく、生きがいを持って暮らせるまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:135人）



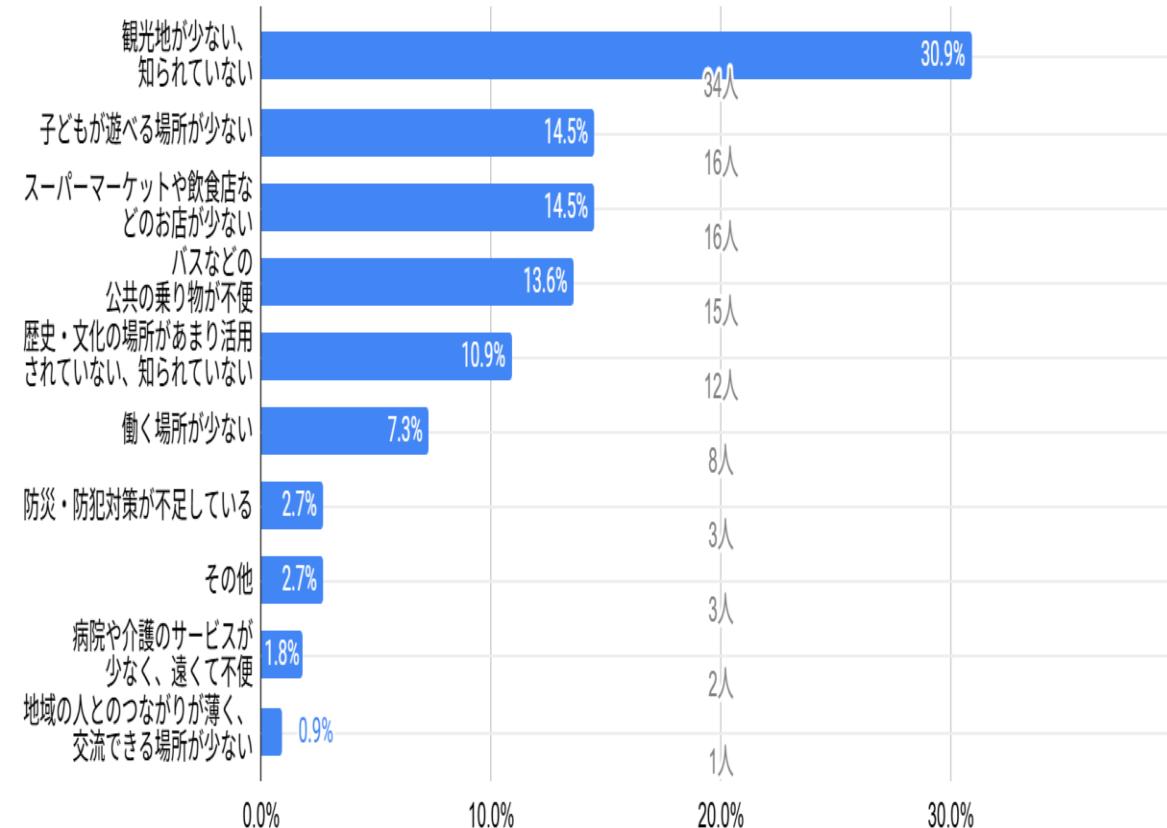
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:130人）



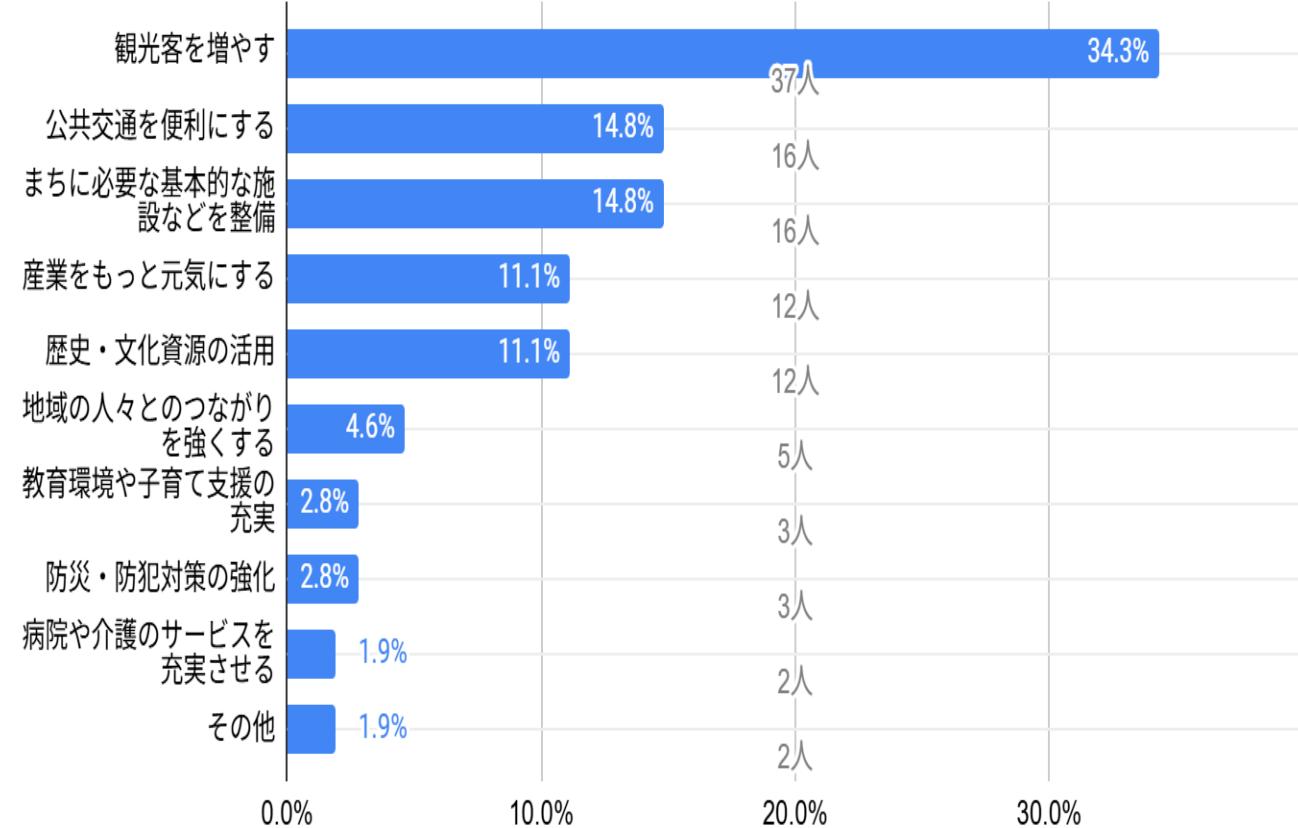
- 「お年寄りが暮らしやすいまち」を望む住民は、「医療・介護」のほか、買い物場所や交通の不便さを課題として考えている。
- 「医療・介護」施設へのアクセス性向上や地域住民のつながり強化、「交通・買い物支援」を組み合わせた取組が必要と考えられる。

③「観光客がたくさん来るまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:110人）



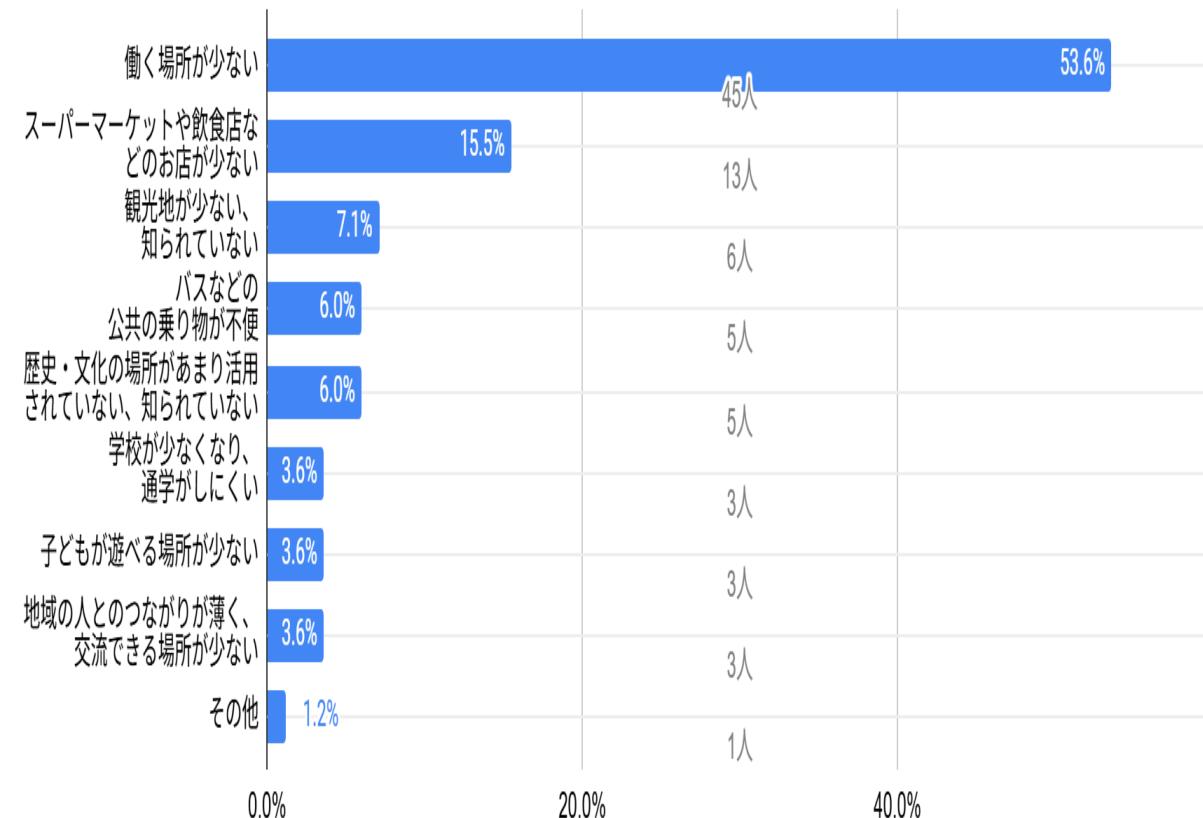
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:108人）



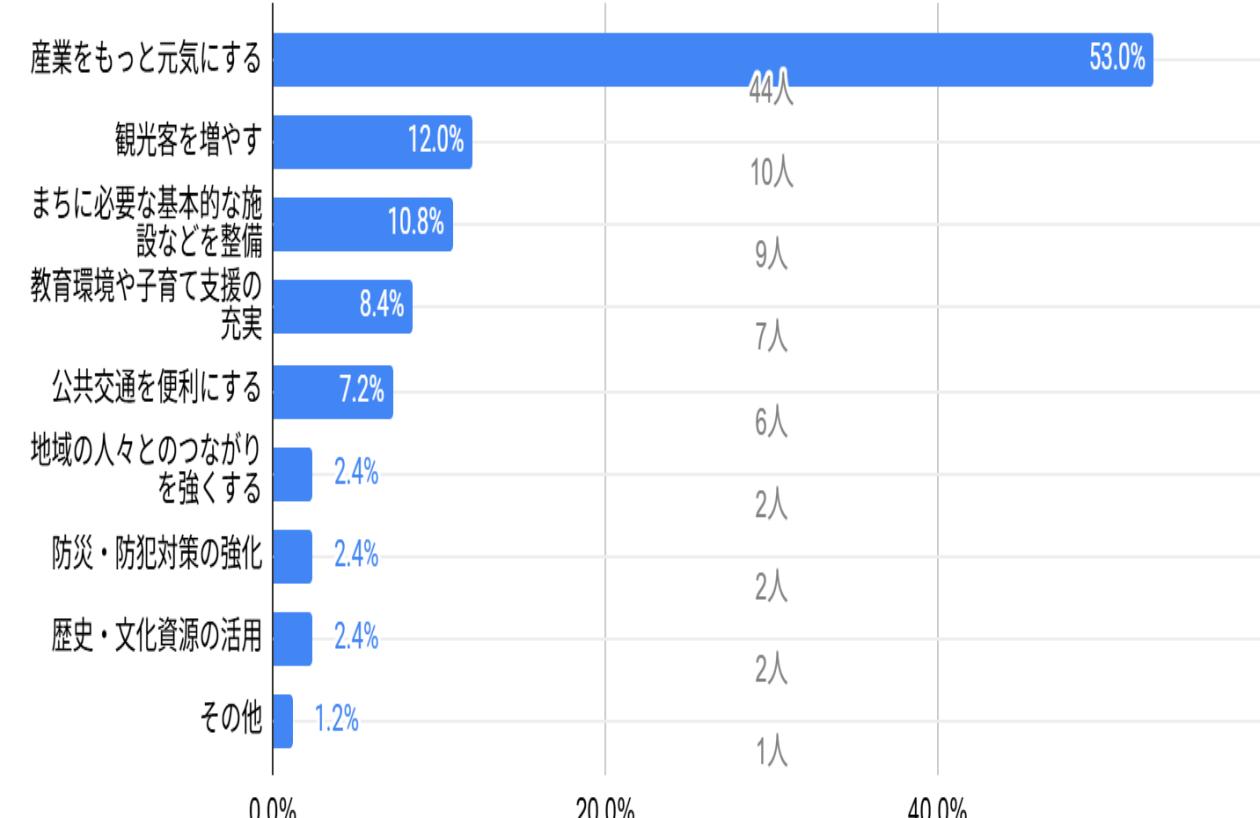
- Q18とも関連するが、観光客が少ない理由の一つに「観光地があまり知られていないこと」と「滞在・回遊性を図る仕組み不足」と分析できる。
- 「大麻町には良いものがあるのに、それが伝わっていない」という思いを抱いている方もいるものだと考えられ、情報発信強化のほか、歴史・文化資源の磨き上げや交通改善が求められている。

④「新しい産業が生まれ、働く場所が安定しているまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:84人）



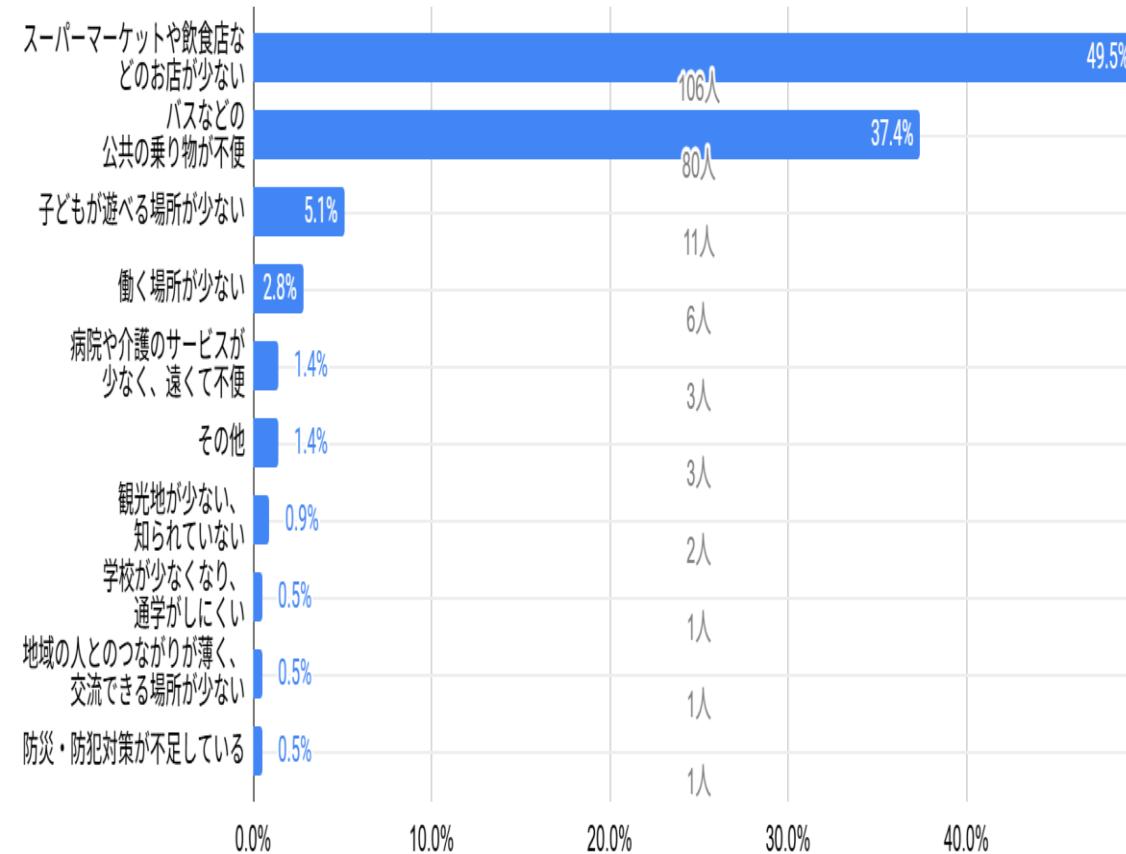
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:83人）



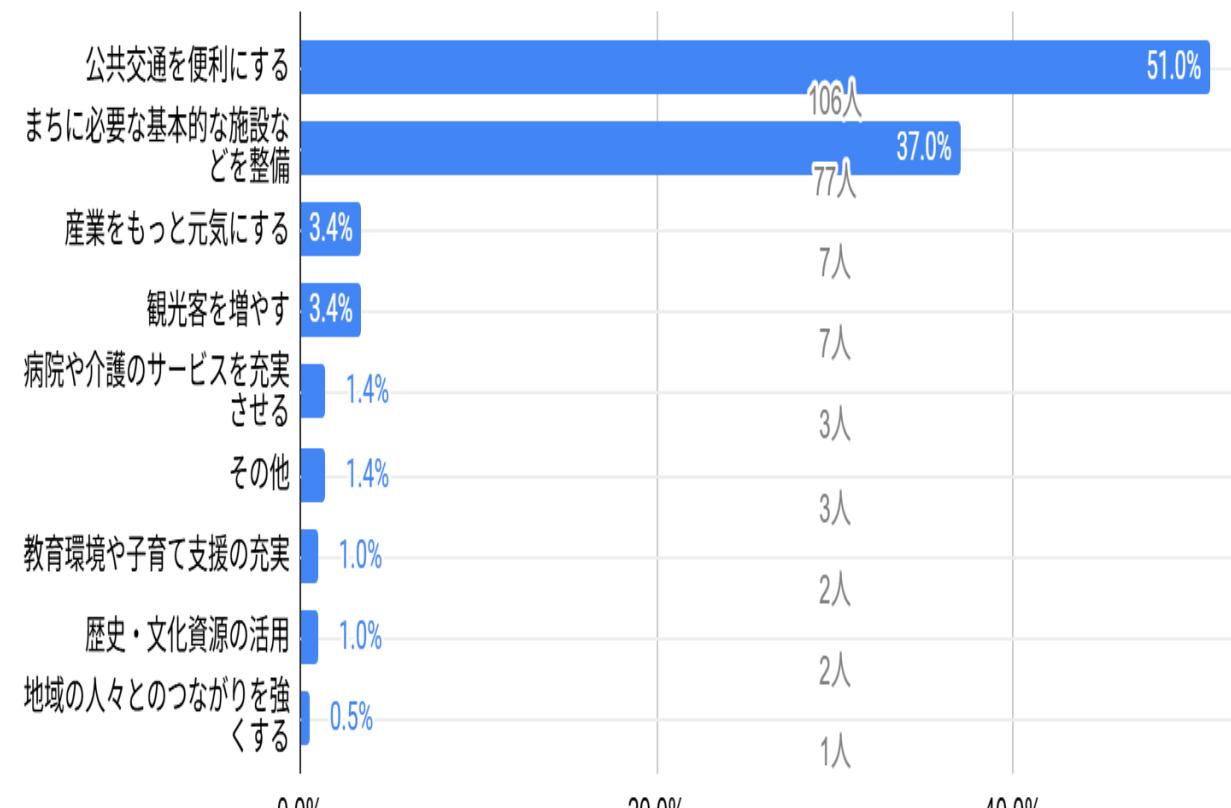
- 「働く場所が安定したまち」にむけて、課題として「地場産業の弱体化」や「新産業の不足」があると分析できる。
- 地域資源を活用した産業振興や企業誘致などの具体的な経済施策によって、新たな雇用機会が創出されると分析できる。

⑤「公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:214人）



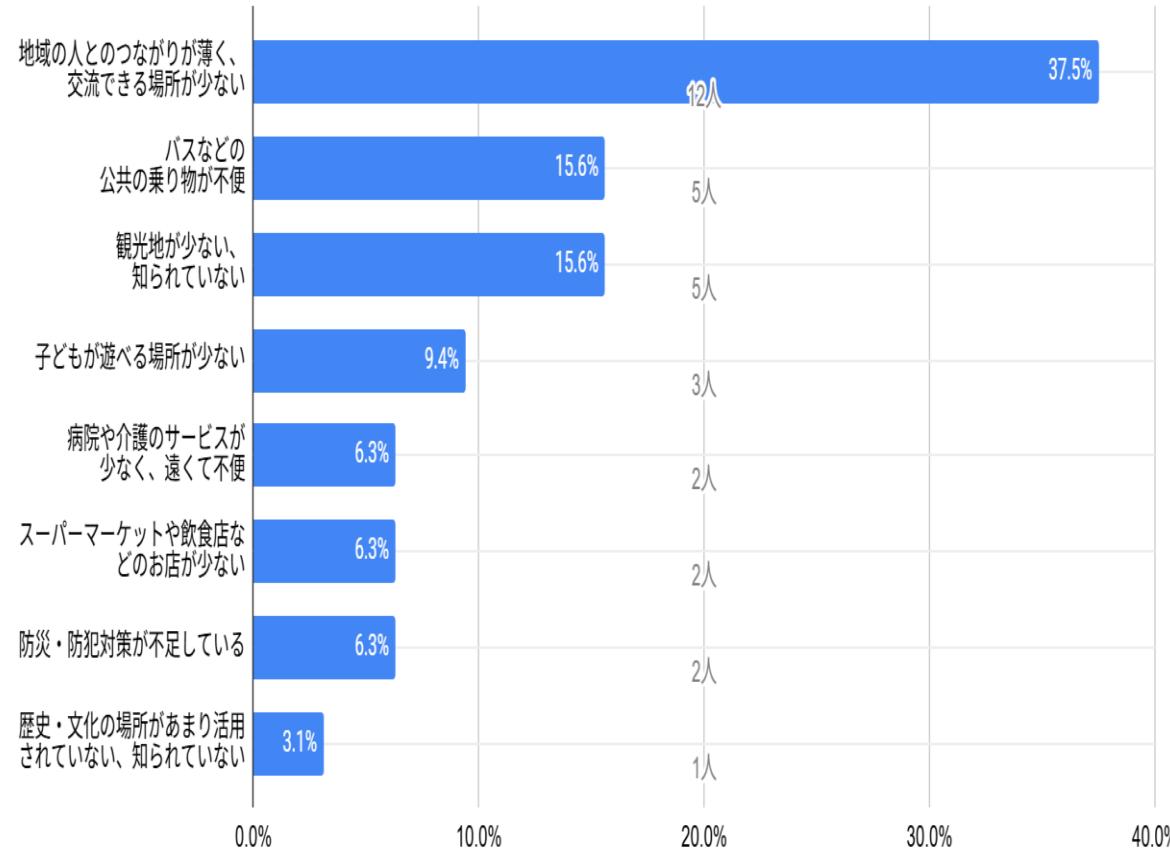
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:218人）



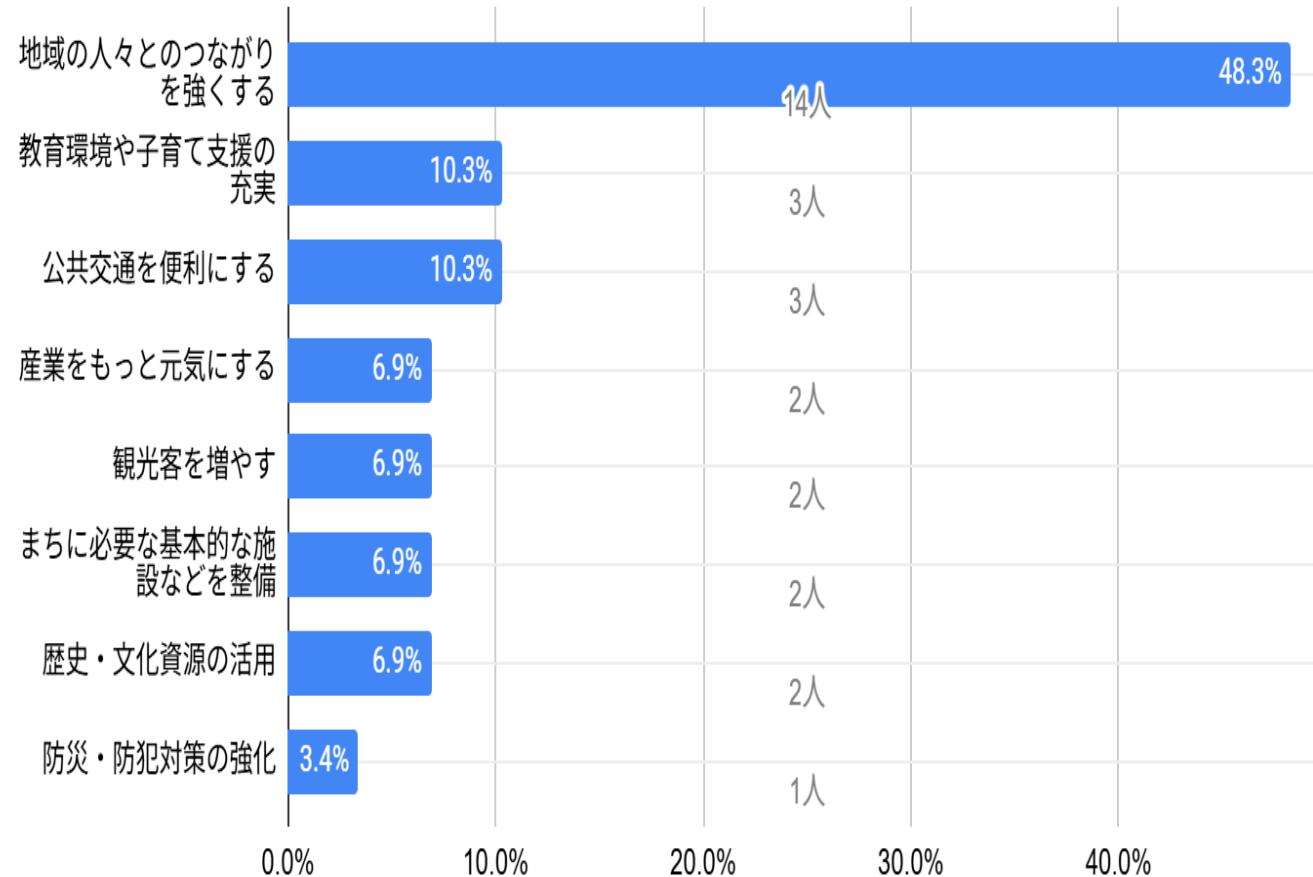
- 「便利なまち」を望む住民は、その課題として「施設の不足」と「交通の不便」を挙げており、力を入れるべき取組としては、「公共交通の利便性向上」が最も多い回答となっている。
- これは、「便利なまち」を実現するためには、「施設」と「交通」の両面からの取組が求められているものと考えられる。

⑥ 「観光客ではなく地域の人の交流が盛んなまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:32人）



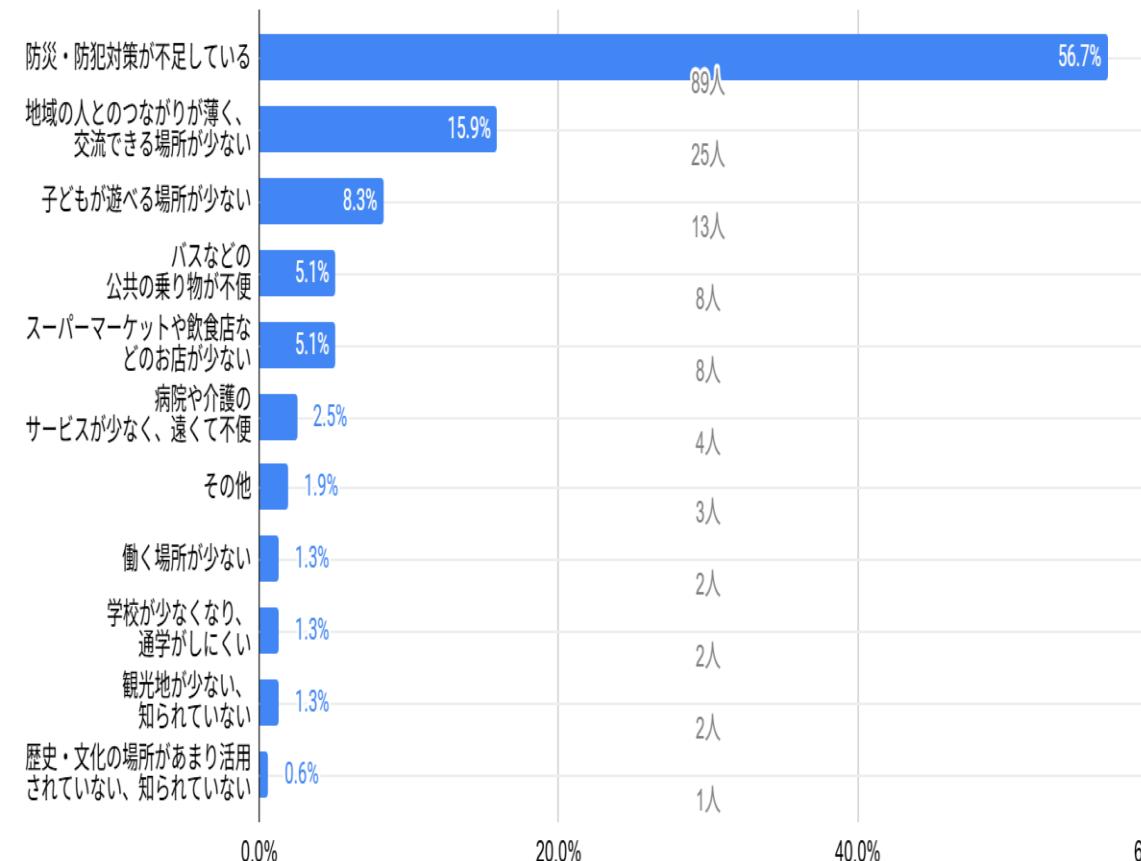
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:29人）



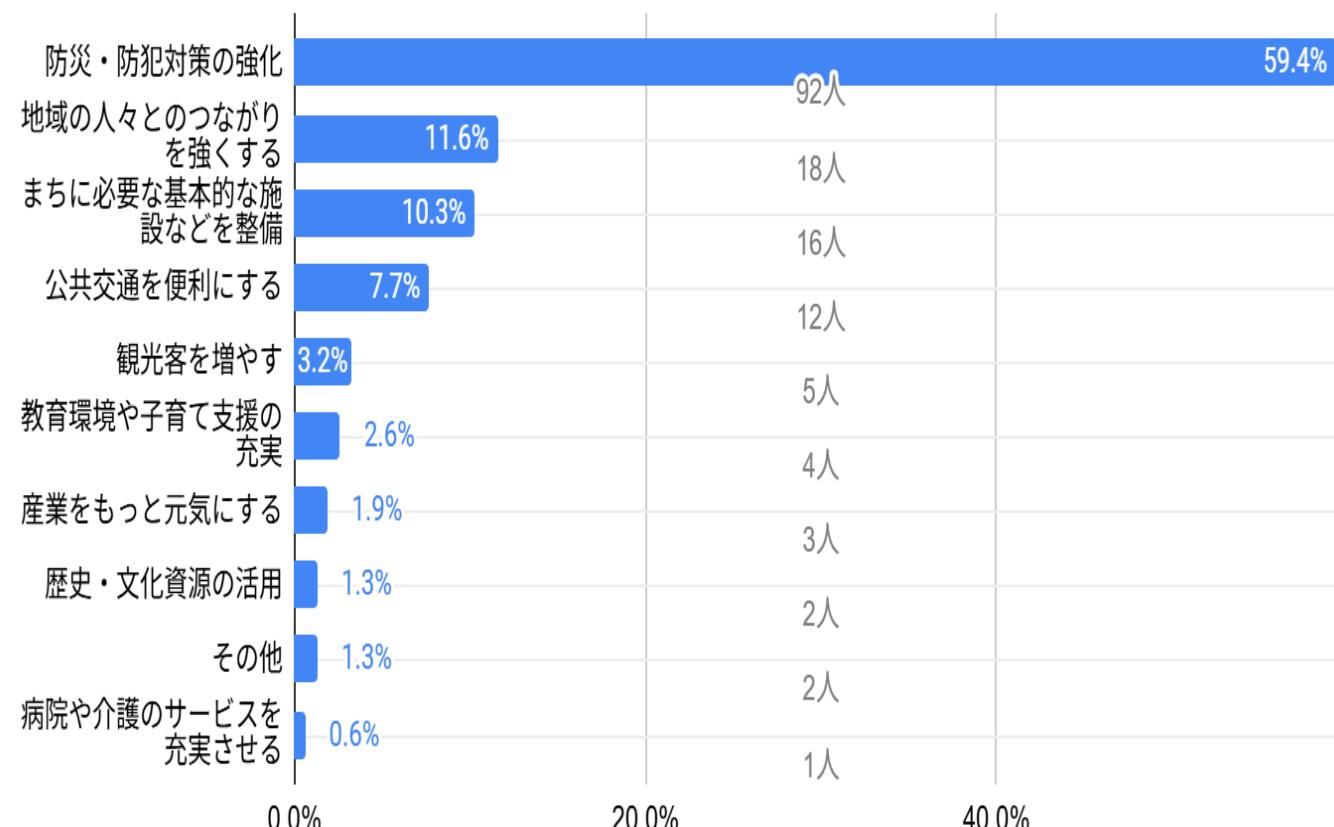
- 「交流が盛んなまち」を望む住民は、その最大の課題を「地域の人と人とのつながりの希薄化」と捉えている。
- このことから、世代を問わず気軽に参加できる「新しい交流の場」を創出していくことが必要であると考えられる。

⑦「災害や犯罪が少ない、安全・安心なまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:157人）



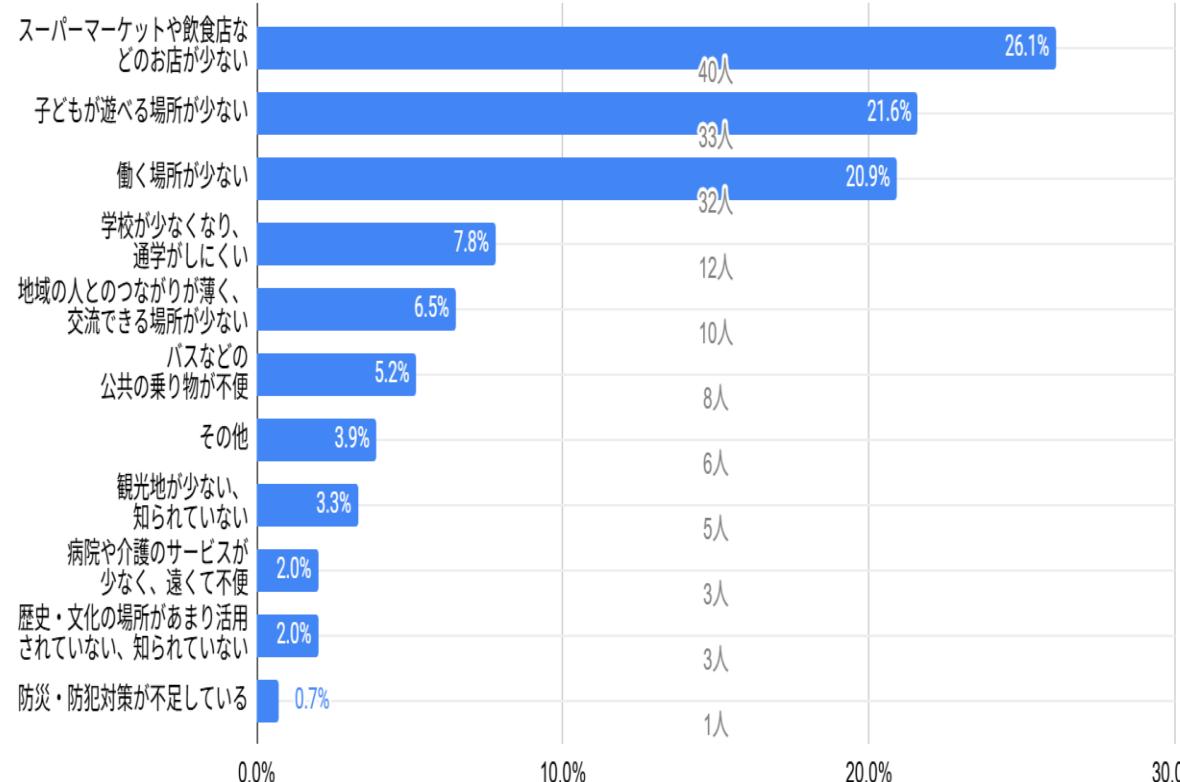
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:155人）



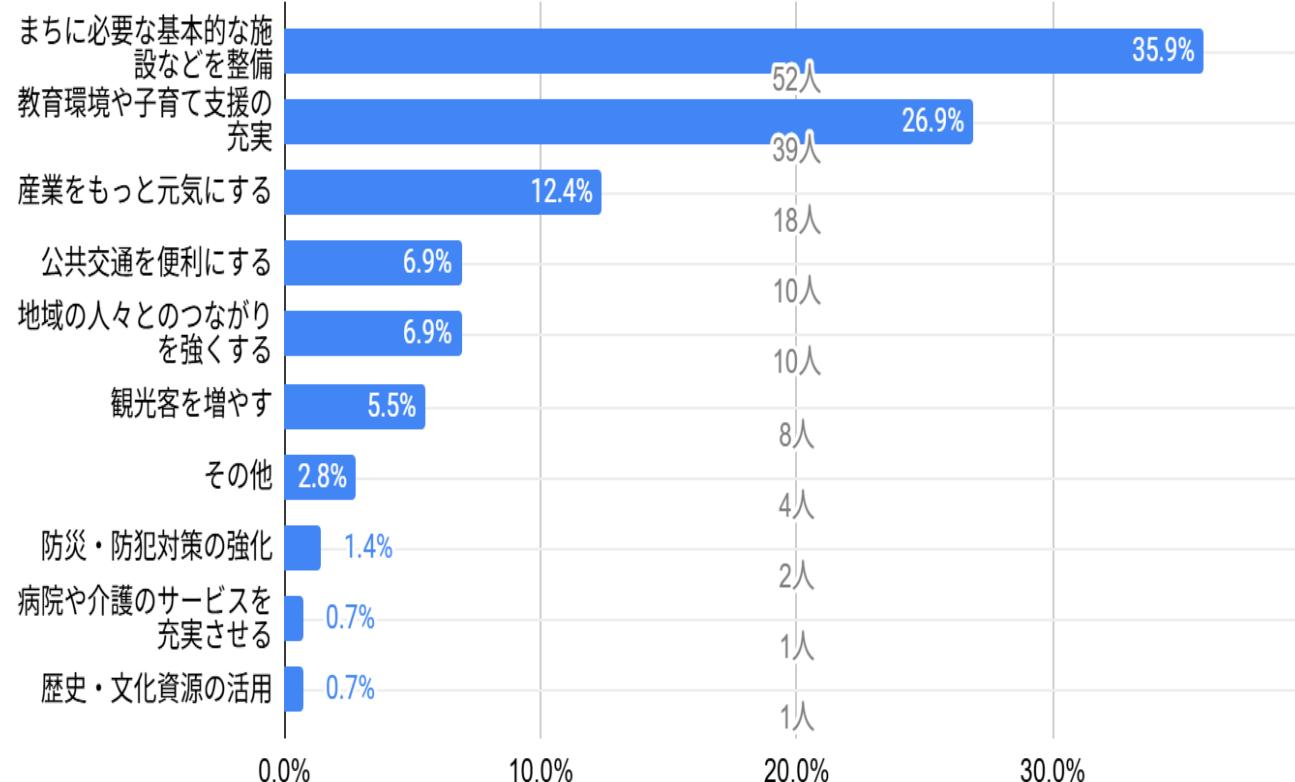
- 「安全・安心なまち」を望む住民は、その課題を「防災・防犯対策の不足」とし、解決策もその「強化」に集約されている。
- 災害や犯罪防止に向けて、「備える取組」のほか、地域で支えあう「共助」の取組が必要であると分析できる。

⑧「若い人や子どもの数など、住む人が増えるまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:153人）



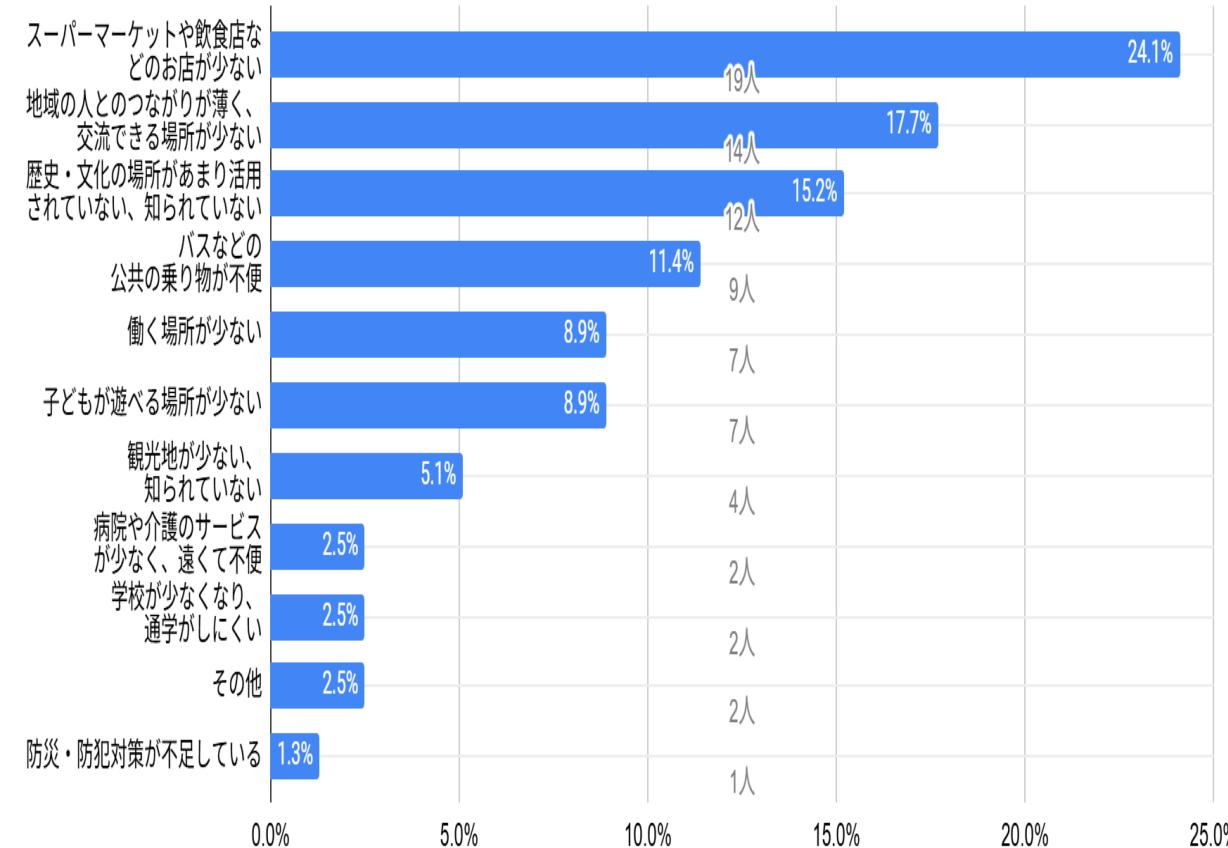
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:145人）



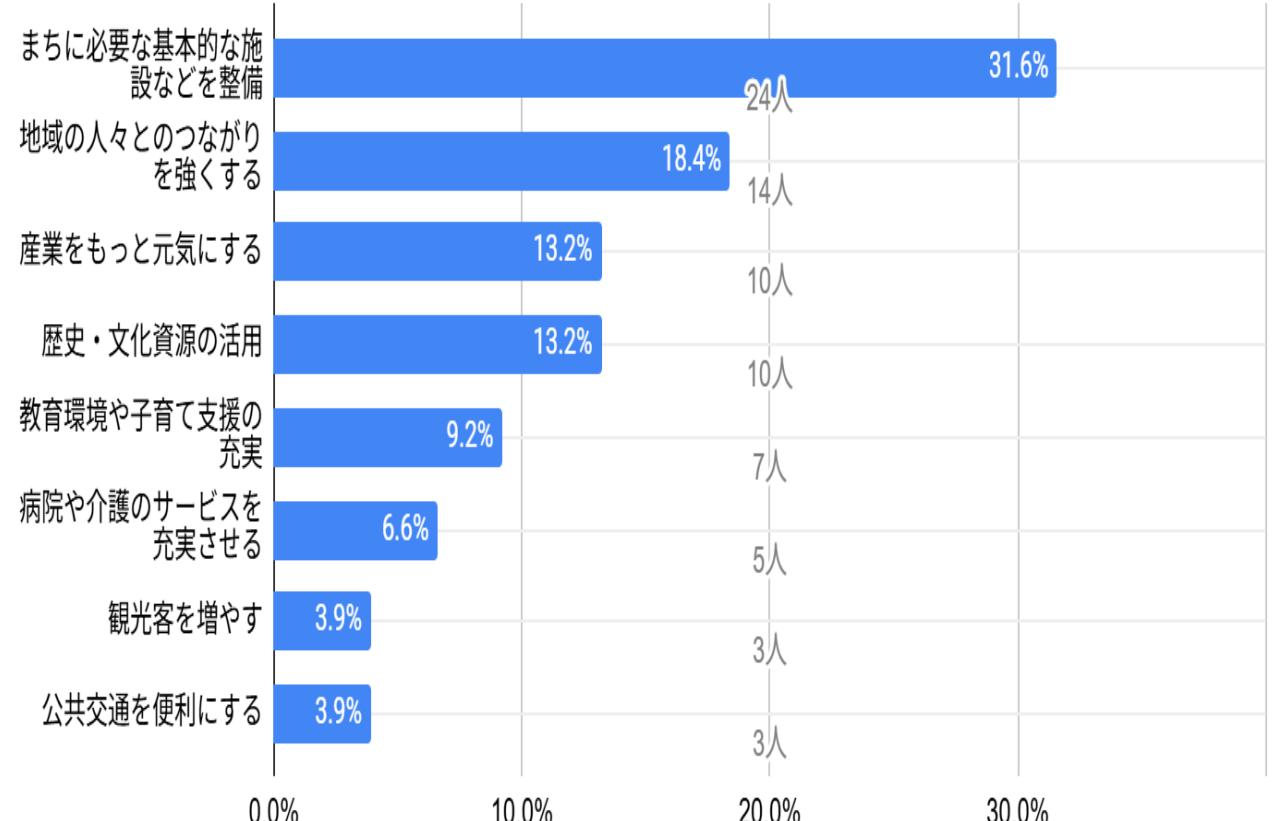
- ・人口増加を実現するためには、「買い物ができる場所」「子育て支援の充実」「働く場所の確保」など、まず暮らしの土台を整えることが重要である。
- ・その上で、地域交流や産業・観光の活性化につなげる「安心して住み続けられる基盤づくり」が求められる。

⑨「人が少なくなても、「大麻町に住むことが幸せだ」と思えるまち」の実現のための課題・今後の取組

Q21: 実現のための課題（有効回答数:79人）



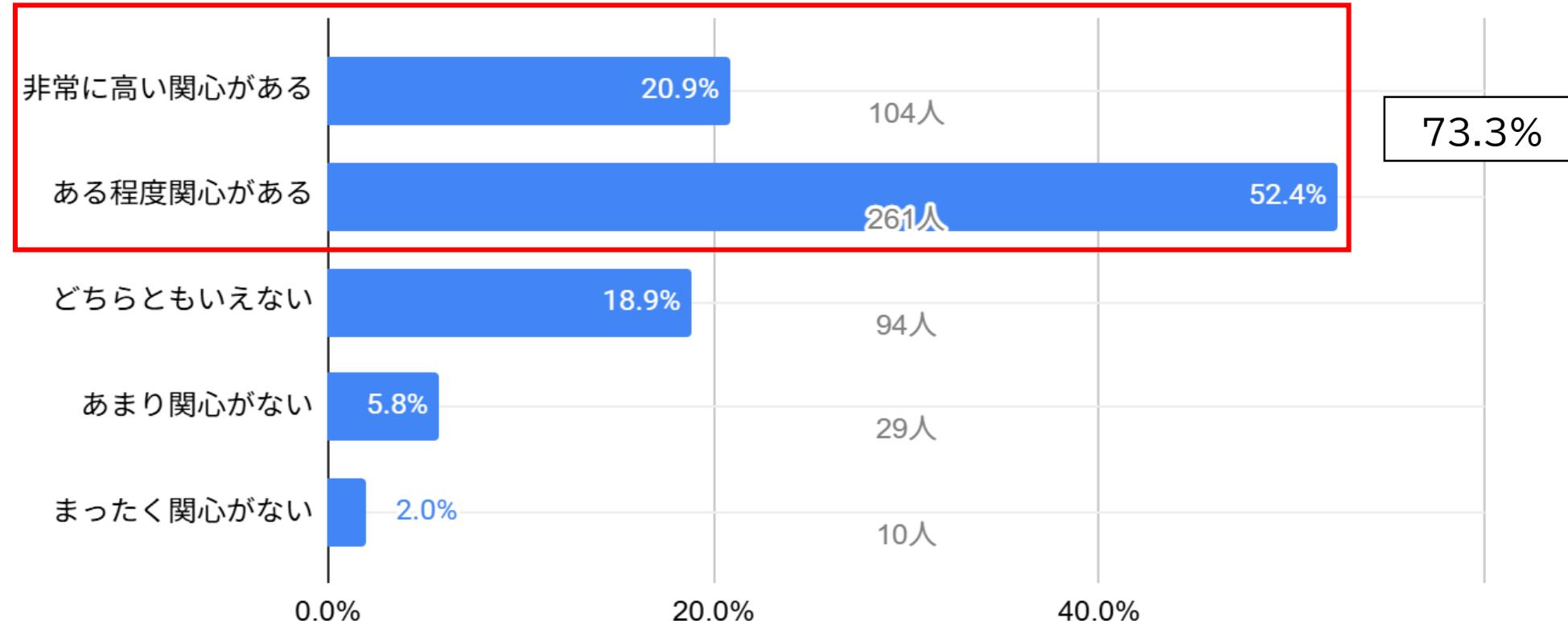
Q22: 力を入れるべき取組（有効回答数:76人）



- ・課題としては、「生活の利便性」「地域のつながり」「シビックプライドの維持」が挙げている。
- ・大麻町の魅力の一つは、自然環境などの「穏やかな幸せ」である。交通・買い物場所などの生活利便性を高めつつ、人とのつながりを強化することで、まちへの誇りを育むことが必要であると考えられる。

まちづくりへの関心度

Q23:「大麻町をどんなまちにしていくか」というまちづくりに、あなたはどれくらい関心(興味)がありますか（有効回答数:498名）



・住民の約4人に3人（73.3%）がまちづくりに関心を持っており、無関心層はごく少数に留まった。

その他 まちづくりに対する自由意見

Q24: その他、大麻のまちづくりに関して自由にお書きください。

【寄せられたご意見の主なテーマ】

■生活の利便性向上を求める声

(スーパー、コンビニ、飲食店、ドラッグストアの誘致)

■子育て・若者世代への投資を望む声

(公園、室内遊戯施設、学校の統合・通学路の安全確保)

■交通インフラの改善に関する要望

(バス・JRの本数増、道路整備、高齢者の移動手段確保)

■地域の魅力向上と情報発信への期待

(観光資源のPR強化、イベント開催、空き家対策)

■行政との連携・近隣自治体との協力

(住民の意見交換の場の設定、藍住町・北島町との広域連携)

【主なご意見（抜粋）】

<生活の利便性について>

- ・なんといってもスーパーがないのが不便。
土地も安いし住みやすいので、スーパーや飲食店ができればもっと大麻町に住みたい人が増えると思う。
- ・高齢になると、大麻町から出て行くしかないと、よく話している。
買い物難民を減らすことが必要。

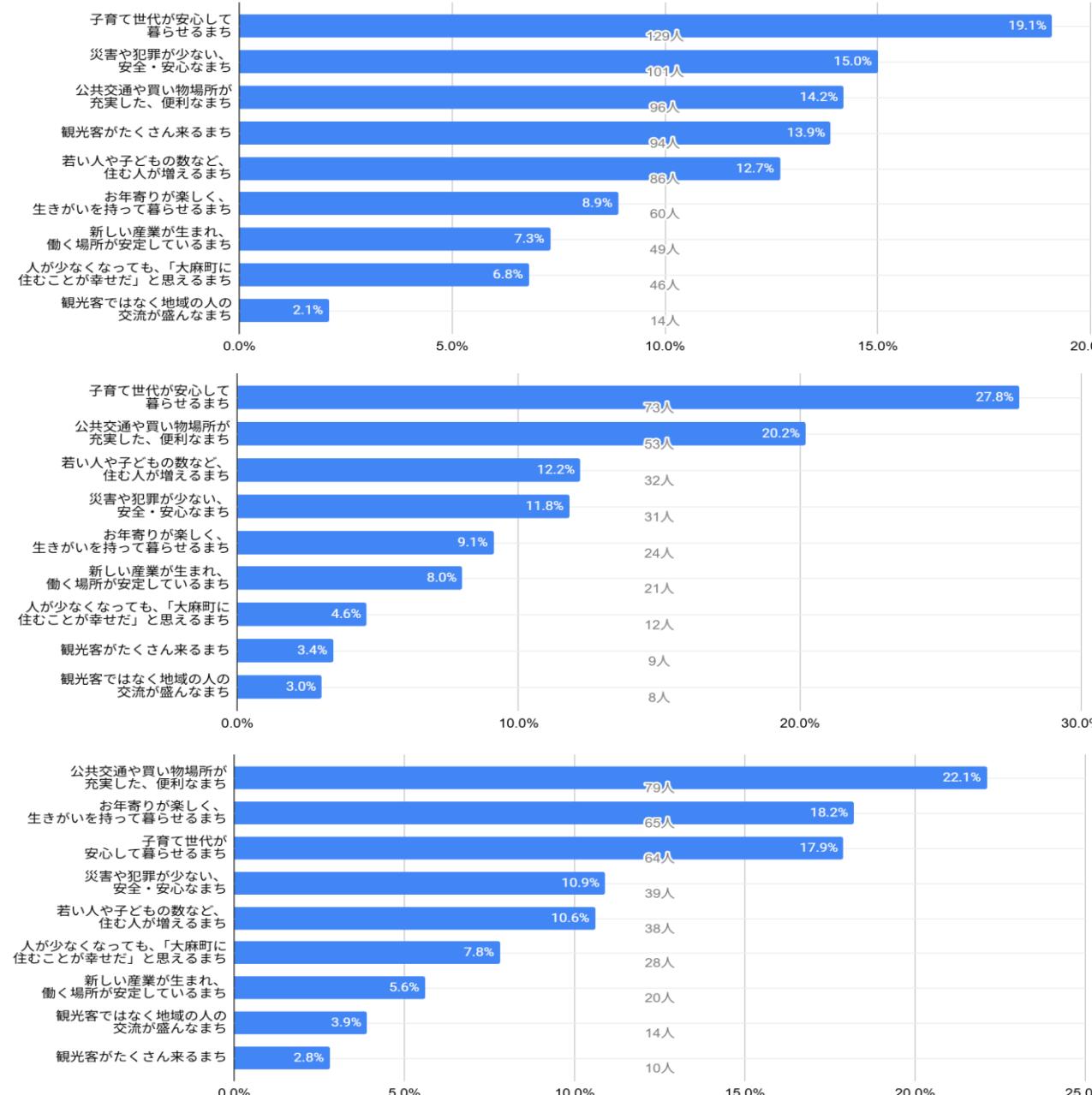
<子育て・若者世代について>

- ・今の時代、室内遊びができる場所は必須である。
あまりにも少なすぎて子育て世帯に遊びに来てもらっても出かける場所がなくて呼べない。
- ・こどもは街や都会への憧れがあり、将来、大麻町を離れる話をしている。
こどもたちが帰ってくる、住みたいと思ってもらえるようなまちづくりをしないと人口減少はとまらない。

<交通インフラについて>

- ・道を綺麗にして欲しい。**段差がひどくて**自転車などで走れない。
- ・今は車の運転ができるので、さほど不便さは感じないが…**70代80代**となって免許証の返納をしている方々は、かなり**不便さを感じている**のではないか。
- ・**交通が充実**しなければ出かけることがままならなくなり、**老化が進む**ことになる。

世代別にみる「望む未来の姿」



10代～20代（若者世代）が望むまちの姿 TOP3

1. 子育て世代が安心して暮らせるまち
2. 災害や犯罪が少ない、安全・安心なまち
3. 公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち

30代～50代（子育て・現役世代）が望むまちの姿 TOP3

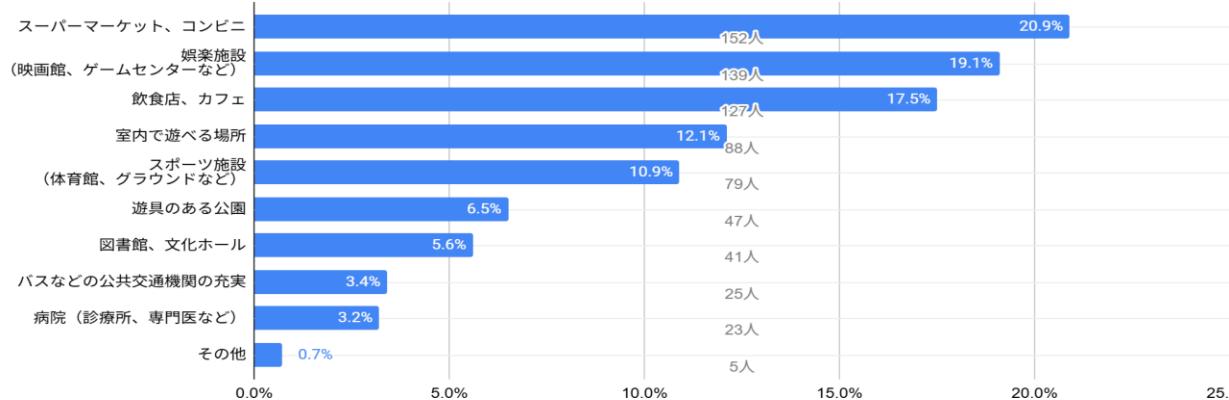
1. 子育て世代が安心して暮らせるまち
2. 公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち
3. 若い人や子どもの数など、住む人が増えるまち

60代～70代以上（高齢者世代）が望むまちの姿 TOP3

1. 公共交通や買い物場所が充実した、便利なまち
2. お年寄りが楽しく、生きがいを持って暮らせるまち
3. 子育て世代が安心して暮らせるまち

- ・すべての世代において、「子育てのしやすさ」と「生活の利便性（買い物や交通）」を重視されている。
- ・世代ごとに特徴も見られ、若者世代は「安全・安心」を、子育て・現役世代は「人口増」を、高齢者世代は「自身の生きがい」をそれぞれ重視する傾向があり、世代別の多様なニーズが存在する。

世代別にみる「求める施設・サービス」



10代～20代（若者世代）が望む施設 TOP3

1. スーパーマーケット、コンビニ
2. 娯楽施設（映画館、ゲームセンターなど）
3. 飲食店、カフェ

30代～50代（子育て・現役世代）が望む施設 TOP3

1. スーパーマーケット、コンビニ
2. 室内で遊べる場所
3. 遊具のある公園

60代～70代以上（高齢者世代）が望む施設 TOP3

1. スーパーマーケット、コンビニ
2. バスなどの公共交通機関の充実
3. 病院（診療所・専門医など）
飲食店、カフェ

- ・「スーパーマーケット・コンビニ」は世代を問わず最も求められている施設である。
- ・世代ごとに求めるニーズは異なり、若者世代は「娯楽・飲食店」、子育て・現役世代は「公園など子どもの遊び場」、高齢者世代は「公共交通機関」や「病院」をそれぞれ重視している。

